日本語 DECnet SNA
プリンタ・エミュレータ for OpenVMS

ユーザーズ・ガイド
／インストレーション・ガイド

AA-Q4Y1A-TE

オペレーティング・システム：日本語 OpenVMS VAX V6.0
または
日本語 OpenVMS AXP V1.5

ソフトウェア・バージョン：　日本語 DECnet SNA プリンタ・エミュレータ for OpenVMS V1.2A

マニュアル・バージョン：　V1.0

1994 年 4 月

本書の著作権は日本ディジタルイクイップメント株式会社 (日本 DEC) が保有しており，本書中の解説および図，表は日本 DEC の文書による許可なしに，その全体または一部を，いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また，本書に記載されている内容は，予告なく変更されることがありますので，あらかじめご承知おきください。万一，本書の記述に誤りがあった場合でも，日本 DEC は一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は，所定のライセンス契約が締結された場合に限り，その使用あるいは複製が許可されます。

日本 DEC は，日本 DEC または日本 DEC の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合，その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

© Digital Equipment Corporation Japan 1994.

All Rights Reserved.
Printed in Japan.

以下は米国 Digital Equipment Corporation の商標です。

ACMS	DECUS	Rdb/ELN	VAX CDD
ALL–IN–1	DECwindows	Rdb/VMS	VAX FMS
DATATRIEVE	DECwriter	ReGIS	VAXstation
DEC	DIBOL	RSTS	VIDA
DEC/CMS	MASSBUS	RSX	VMS
DEC/MMS	PDP	RT	VT
DECforms	P/OS	TDMS	Work Processor
DECintact	Professional	ULTRIX	
DECmate	Rainbow	UNIBUS	digital™
DECnet	RALLY	VAX	

以下は他社の商標です。

- PostScript は米国 Adobe Systems 社の商標です。
- IBM は IBM 社の商標です。

目次

まえがき viii

1 ユーザーズ・ガイド

1.1 はじめに 1–1
1.1.1 日本語 PrE の機能概要 1–1
1.1.2 データの出力 1–2
1.1.3 IBM ホストからのデータの受信 1–3
1.1.4 日本語 PrE と日本語 3270TE 1–5

1.2 JSNAPRE ユーティリティ 1–6
1.2.1 JSNAPRE ユーティリティの起動 1–6
1.2.2 ヘルプ情報 1–7
1.2.3 キャラクタリスティックスの定義 1–8
1.2.4 キャラクタリスティックスの表示 1–8
1.2.5 日本語 PrE の開始 1–9
1.2.6 キャラクタリスティックス名 1–9
1.2.7 接続開始後のコマンド入力 1–10
1.2.8 修飾子 1–10
1.2.9 ユーザの特権 1–10
1.2.10 JSNAPRE のメッセージ 1–10
1.2.11 JSNAPRE ユーティリティの終了 1–11

1.3 日本語 PrE の制御 1–11
1.3.1 概要 1–12
1.3.2 接続の開始 1–12
1.3.2.1 START コマンドの修飾子 1–12
1.3.2.2 START コマンドの使用例 1–16
1.3.2.3 START コマンドのリトライ機能 1–16
1.3.3 日本語 PrE へのデータ送信 1–17
1.3.4 接続の終了 1–17
1.3.5 データの制御 1–18
1.3.5.1 PA1 コマンドと PA2 コマンド 1–18
1.3.5.2 SWITCH コマンド 1–19
1.3.5.3 SWITCH コマンドの修飾子 1–19
1.3.5.4 SWITCH コマンドの例 1–21
1.3.5.5 CANCEL コマンド 1–21
1.3.6 コマンドの使用例 1–21
1.3.7 USE コマンド 1–22

1.4 日本語 PrE の情報 1–23
1.4.1 MONITOR コマンド 1–23
1.4.2 イベント・ログ・ファイル 1–25
1.4.3 キャラクタリスティックス・ファイル 1–26
1.4.4 接続の状態 1–27

2 インストレーション・ガイド

2.1 インストレーションの準備 2–1
2.1.1 ディストリビューション・キットの確認 2–1
2.1.2 OpenVMS システムの必要事項 2–1
2.1.2.1 インストレーションの必要事項 2–2
2.1.2.1.1 必要なソフトウェア 2–2
2.1.2.1.2 サポートされるプロセッサ 2–2
2.1.2.1.3 DECnet SNA Gateway 2–2
2.1.2.2 OpenVMS ライセンス管理機能 (LMF) 2–3
2.1.2.3 必要な OpenVMS テーラリング 2–4
2.1.2.4 オンライン・リリース・ノートへのアクセス 2–4
2.1.3 バックグラウンド・プロセスの確認 2–4
2.1.4 インストレーション検証プロシージャ (IVP) の必要事項 2–5
2.1.5 VMSINSTAL の必要事項 2–5
2.1.5.1 特権 2–6
2.1.5.2 ディスク・スペース 2–6
2.1.5.3 システム・パラメータ 2–6
2.1.5.4 プロセス・クォータ 2–6
2.1.5.5 DECnet パラメータ 2–7
2.1.6 システム・ディスクのバックアップ 2–7

2.2 日本語 PrE のインストレーション 2–7
2.2.1 インストレーションの手順 2–7
2.2.1.1 VMSINSTAL の起動 2–8
2.2.2 インストレーションの後に 2–12
2.2.2.1 インストレーションにより作成されるファイル 2–12
2.2.2.2 インストレーション検証プロシジャ 2–12
2.2.2.3 日本語 PrE の起動 2–13
2.2.2.4 START コマンドにおけるリトライ機能 2–14
2.2.2.5 製品のテスト 2–14
2.2.2.6 VAX クラスタでの日本語 PrE の実行 2–14
2.2.3 エラー・リカバリ 2–15
2.2.4 問題点の通知 2–16

A 日本語 PrE の管理

A.1 キャラクタリスティックス・ファイルの作成と変更 A–1
A.1.1 日本語 PrE のキャラクタリスティックス・ファイル A–1
A.1.2 キャラクタリスティックス・ファイルの作成 A–2
A.1.3 SET CHARACTERISTICS コマンドの修飾子 A–3
A.1.4 キャラクタリスティックス・ファイルの使用例 A–8

A.2 キャラクタリスティックス・ファイルの変更 A–8
A.2.1 キャラクタリスティックス・ファイルの内容表示 A–9

A.3 キャラクタリスティックス・ファイルの削除 A–10

A.4 接続の開始 (OPER 特権が必要) A–11

A.5 接続の終了 (OPER 特権が必要) A–12

A.6 接続の状態表示 A–13

B 日本語 PrE メッセージ

B.1 メッセージの形式 B–1
B.1.1 コンソール端末に表示されるメッセージ B–1
B.1.2 ユーザ端末に表示されるメッセージ B–2
B.1.3 イベント・ログ・ファイルのメッセージ B–2

B.2 メッセージ一覧 B–3
B.2.1 重大な内部メッセージ B–27

C 1 バイト変換テーブル

C.1 /KANA 修飾子が指定された場合 C–1

C.2 /NOKANA 修飾子が指定された場合 C–4

D jsnaknjdef ユーティリティ

D.1 起動方法 D–1

D.2 jsnaknjdef コマンド形式 D–1

D.3 jsnaknjdef ユーティリティ内のコマンド形式 D–2
D.3.1 use コマンド D–2
D.3.2 list コマンド D–3
D.3.3 define コマンド D–5
D.3.4 undefine コマンド D–8
D.3.5 help コマンド D–9
D.3.6 exit コマンド D–9
D.3.7 quit コマンド D–9

E 日本語 PrE のトラブル・シューティング

F DEC 拡張漢字セット内の IBM 付加文字

索引

図

1–1 日本語 PrE を使用している場合のコンフィグレーション 1–2
1–2 日本語 PrE を使用する流れ 1–4
1–3 IBM システムからのデータ受信 1–5
C–1 /KANA 修飾子が指定された場合の変換テーブル (EBCDIC ⇒ JIS，カナ文字用) C–3
C–2 /NOKANA 修飾子が指定された場合の変換テーブル (EBCDIC ⇒ ASCII，英小文字用) C–5
D–1 list 表示例－１ . . . . . D–4

表

2–1　インストレーション必要事項 2–2
2–2　日本語 PrE のファイル一覧 2–12
2–3　日本語 PrE の論理名 2–14
A–1　SET CHARACTERISTICS コマンドの修飾子と省略値 A–3

まえがき

日本語 DECnet SNA プリンタ・エミュレータ for OpenVMS（以下、日本語 PrE）は日本 DEC のレイヤード製品です。日本語 PrE を使用することにより、 OpenVMS システムは DECnet SNA Gateway を通して IBM システムから送信された日本語印刷データを受信することができます。日本語 PrE は IBM システムからは IBM3274 制御装置に接続された 1 台、もしくはそれ以上の IBM3283 型印刷装置として認識されます。これにより日本語 PrE 利用者は、 IBM システム上の適用業務プログラムからそれがあたかも IBM3283 型印刷装置にデータを送信するかのようにして、OpenVMS システムにデータを送信することが可能になります。

本書の目的

本書「日本語 DECnet SNA プリンタ・エミュレータ for OpenVMS ユーザーズ・ガイド」では，日本語 DECnet SNA プリンタ・エミュレータ for OpenVMS（以下日本語 PrE）を管理するコマンド・ユーティリティ (JSNAPRE) について説明します。また，日本語 PrE のスタートアップ，使用方法，終了方法，管理方法，インストール方法についても説明します。

本書の対象者

本書は次のような方を対象としています。

- 日本語 PrE の設定，管理を行う利用者。
- 日本語 PrE を使用して， IBM システムからの印刷データを受信する利用者。

このような利用者は， OpenVMS の基本的な知識が必要です。

IBM システムの適用業務プログラムについての情報は，本書には記述されていません。関連する IBM 社のマニュアルを参照して下さい。

本書の構成

本書は第 1 章のユーザーズ・ガイドと第 2 章のインストレーション・ガイドで構成されています。

- 第１．１章　はじめに

日本語 PrE のすべての利用者を対象としています。日本語 PrE とはどのような製品なのか，どのようにして使用するのかを説明します。

- 第１．２章　　日本語 PrE の使用法

  日本語 PrE の開始，終了の方法，そして日本語 PrE の情報を得る方法について説明します。

- 第１．３章　　日本語 PrE の制御

  コネクションの開始方法，そして IBM システムからの印刷データの受信方法について説明します。

- 第１．４章　　日本語 PrE の状態情報

  MONITOR および SHOW コマンドで表示される日本語 PrE の状態情報について説明します。

- 第２．１章　　日本語 PrE をインストールするための準備事項について説明します。

- 第２．２章　　日本語 PrE のインストレーションの手順，およびインストール後の手続きについて説明します。

- 付録Ａ　　JSNAPRE ユーティリティ・コマンド

  JSNAPRE ユーティリティで使用できるコマンド，および修飾子について説明します。

- 付録Ｂ　　日本語 PrE メッセージ

  日本語 PrE が出力するメッセージについて説明します。

- 付録Ｃ　　１バイト変換テーブル

  IBM 社の EBCDIC コードと ASCII コードとの変換テーブルについて説明します。

- 付録Ｄ　　jsnaknjdef ユーティリティ

  IBM 社の IBM コードと DEC 拡張漢字セットの文字コードとの変換対応規則を定義する，外字管理ファイルの作成，管理の方法について説明します。

- 付録Ｅ　　日本語 PrE のトラブルシューティング

  日本語 PrE を使用した時に発生したトラブルを解決するための情報を紹介します。

- 付録Ｆ　　DEC 拡張漢字セット内の IBM 付加文字

  DEC 拡張漢字セット内の IBM 選定文字の一覧を示します。

- 付録Ｇ日本語 PrE のインストレーション例を示してあります。

参考文献

DECnet SNA Gateway については，以下のマニュアルを参照してください。

- DECnet SNA Gateway Installation Guide
- DECnet SNA OpenVMS Gateway Management Guide
- DECnet SNA Gateway Problem Determination Guide

必要に応じて，以下の IBM 社のマニュアルも参照して下さい。

- ACF for VTAM Version2,MesSagees and Codes(IBM Order No. SC27-0614)
- IBM 3270 Information Display System and 3274 Control Unit Description and Programmer's Guide(IBM Order No. GA23-0061)

本書で使用される表記法

本書では下記の表記法を使用します。

表記	説明
JSNAPRE>	'>' で終了しているプロンプトは，使用するコマンド言語を示します。
[*opt-arg*]	形式の説明で，大括弧は省略可能な部分を示します。何も選択しないか 1 つの項目を選択するか，またはすべての項目を選択できます。
RET	キーボードのキーを押すことを示す場合には，キー名を枠で囲んで示します。
CTRL/x	CTRL/x 等のキーの組み合せは， CTRL キーを押した状態で別のキーを押すことを示します。

1

ユーザーズ・ガイド

1.1 はじめに

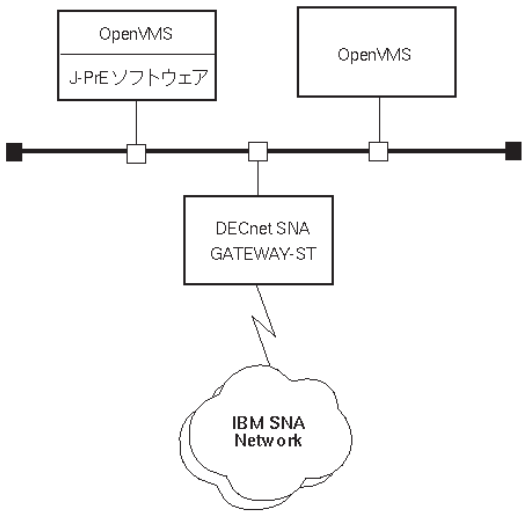
この章では，日本語 PrE の機能概要について説明します。また，日本語 PrE と当社の日本語 DECnet SNA 3270 ターミナル・エミュレータ for OpenVMS（日本語 3270TE ）を組み合わせて使用する場合の例についても説明します。

1.1.1 日本語 PrE の機能概要

日本語 PrE は， SNA 環境における IBM ホスト・システムからプリンタに送られた日本語データを， OpenVMS システムのユーザが受信することを可能にします。データは 2 つのシステム間で， DECnet SNA Gateway のインタコネクト・システムを介して送られます。本書では、これらのインタコネクト・システムをゲートウェイと記述します。

日本語 PrE がインストールされた OpenVMS システムは， IBM3274 制御装置に接続された， 1 台もしくはそれ以上の IBM3283 型印刷装置をエミュレートして IBM システムと OpenVMS システム間の通信を可能にします。図 1–1 は， IBM システムと日本語 PrE がどのように接続されているかを示しています。

図 1–1　日本語 PrE を使用している場合のコンフィグレーション



日本語 PrE は，JSNAPRE というコマンド・ユーティリティにより制御されます。 JSNAPRE>というプロンプトに対して日本語 PrE の設定，管理および JSNAPRE の終了を実行するコマンドを入力します。これらすべてのコマンドは，日本語 PrE のバックグラウンド・プロセス (JSNAPREDET) に送られます。JSNAPREDET プロセスは OpenVMS システム上で動作し，IBM システムと日本語 PrE 間を流れるデータを制御します。日本語 PrE をインストールした後，SYS$STARTUP:JSNAPRE$STARTUP.COM コマンド・プロジージャを用いて JSNAPREDET プロセスを作成します。このプロセスは JSNAPRE ユーティリティとは独立に動作し，JSNAPRE ユーティリティを終了しても動作し続けます。

VAX クラスタ環境下では，クラスタ内の複数のノード上で JSNAPREDET プロセスを作成することもできます。ただし，同時に実行するのはこの中の 1 つのプロセスだけです。このプロセスが動作しているノードに障害が発生して使用不可能となったり，何らかの原因で終了した場合には，クラスタ内の他のノード上のプロセスを使用することができます。

1.1.2　データの出力

日本語 PrE は IBM のプリンタとその制御装置をエミュレートしていますが，IBM システムから受信したデータを自動的には印刷しません。受信したデータは日本語 PrE の設定時に指定した出力ストリームに送られます。出力ストリームには，次のものがあります。

- OpenVMS システムのデバイス
- OpenVMS システム上のファイル

- 他の DECnet ノード上のファイル

次のようにして出力ストリームへ送られたデータを印刷することもできます。

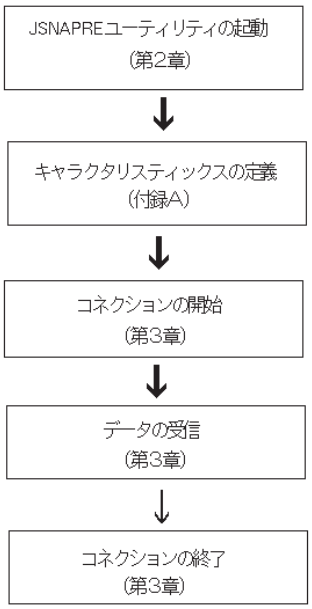
- 出力ストリームとしてファイルを指定し，そのファイルを出力するプリント・キューを指定することにより，プリント・キューへのスプール出力を行うことができます。
- 出力ストリームとしてプリンタを指定します。スプールド・プリンタであれば，データは一時的にファイルに格納され，印刷終了後にシステムは自動的にそのファイルを削除します (/NODELETE 修飾子を指定することにより，ファイルを削除しないようにすることもできます)。

1.1.3 IBM ホストからのデータの受信

IBM システムからデータを受信する前に，JSNAPRE ユーティリティによりキャラクタリスティックス (characteristics) を定義し，IBM システムとの接続を開始しておく必要があります (図 1–2)。キャラクタリスティックスは，IBM システムとの接続を制御します。キャラクタリスティックスにより，どのようにデータを受信するのか (コード変換，フォーマッティング) ，どこにデータを出力するのか (プリンタ，ファイル) などが決まります。

1 つの接続は，エミュレートされた 1 台の IBM3283 型印刷装置に対応します。接続を開始するときには，前もって定義されているキャラクタリスティックス名を指定します。 JSNAPREDET プロセスは JSNAPRE ユーティリティから送られたキャラクタリスティックスの情報をを使用して，IBM システムとの接続を開始します。この情報は，JSNAPRE ユーティリティの SWITCH コマンドまたは STOP コマンドが入力されるまで有効です。 JSNAPRE ユーティリティのコマンドを入力するときには，キャラクタリスティックス名を指定しなくてはなりません。キャラクタリスティックスの定義の方法については，付録 A を参照してください。

図 1–2　日本語 PrE を使用する流れ

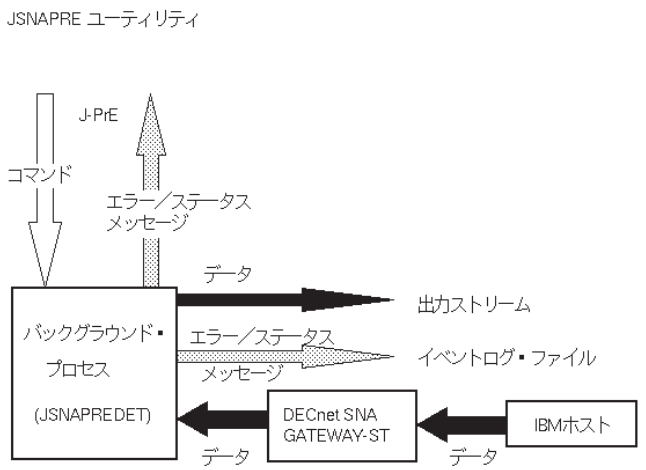


キャラクタリスティックスはいくつでも定義することができ，何回でも使用できます。それぞれの接続に対して，異なるキャラクタリスティックスを使用することも可能ですが，日本語 PrE では最大 128 まで同時に開始できます。実際に使用可能な接続数は，インターコネクト・システム自体の使用可能な最大セッション数および日本語 PrE 以外の使用するアプリケーション (たとえば日本語 3270TE) がどれだけインターコネクト・システムを使用するかによります。日本語 PrE がどれくらいの接続を同時にできるかは，ゲートウェイのシステム管理者にお問い合わせください。

接続が開始されると， JSNAPREDET プロセスは IBM システムからのセッション開始メッセージ (BIND) を受信する用意ができています。この BIND によって IBM システムが日本語 PrE へデータを転送するセッションを開始します。 1 つの接続で，同時に複数のセッションを処理することはできません。 JSNAPREDET プロセスは受信したデータを出力ストリームに送り，前もってキャラクタリスティックスで指定したログファイルにログ情報を書き込みます。

日本語 PrE がセッション終了メッセージ (UNBIND) を受信すると，セッションは終了します。 JSNAPRE ユーティリティの STOP コマンドが入力されない限り， IBM システムとの接続は終了しません。図 1–3 は，日本語 PrE がどのように IBM システムからデータを受信するかを示しています。

図 1–3　IBM システムからのデータ受信



1.1.4　日本語 PrE と日本語 3270TE

OpenVMS システムのシステム管理者または特権のない日本語 PrE ユーザは，IBM システムとの接続を 1 つまたは複数開始することができます。日本語 PrE の接続を開始してから，ユーザは IBM システム上で日本語 PrE に印刷データを送信するためのコマンド入力またはアプリケーションの起動を行います。たとえば日本語 3270TE を起動して IBM システムにログオンし，日本語 PrE がエミュレートしている IBM システムのプリンタまたは LU 名を指定して，印刷データを送信するためのコマンドを入力することができます。日本語 3270TE は，IBM 社の IBM 3270 情報表示システムにおける，IBM3274 制御装置に接続された IBM3270 端末をエミュレートする日本 DEC の製品です。

IBM3270 端末と IBM3283 型印刷装置を使用するのと同様に，日本語 3270TE と日本語 PrE を使用することができます。 IBM システム上で PRINT SCREEN キーを押すことにより，IBM3270 端末に表示されている画面を印刷することができますが，日本語 3270TE の画面データを直接日本語 PrE に送ることはできません。そのかわりに日本語 PrE を使用せずに，日本語 3270TE の PRINT SCREEN キーが押されると，その画面データは OpenVMS 上のファイルとして作成されます。

日本語 3270TE と日本語 PrE を同時に使用する例として，IBM 社の漢字端末印刷プログラムを使用して TSO ユーザがデータ・セットを印刷することができます。日本語 3270TE，日本語 PrE，漢字端末印刷プログラムがインストールされ，日本語 PrE の接続が開始されている場合は，日本語 3270TE を起動して TSO にログオンし，漢字端末印刷プログラムのコマンドを入力することができます。コマンド行には，印刷するデータセット名と日本語 PrE がエミュレートしているプリンタ名を指定します。

そのデータセットは IBM3283 型印刷装置に送られるかのように日本語 PrE に送信されます。

1.2 JSNAPRE ユーティリティ

この章では，JSNAPRE コマンド・ユーティリティに関する次の内容について説明します。

- JSNAPRE ユーティリティの起動と終了
- JSNAPRE ユーティリティのヘルプ情報
- JSNAPRE コマンドの入力
- 端末に表示されるメッセージ

1.2.1 JSNAPRE ユーティリティの起動

日本語 PrE をインストールしバックグラウンド・プロセス (JSNAPREDET) を起動してから，JSNAPRE ユーティリティを起動します。 JSNAPRE ユーティリティは，次のような DCL RUN コマンドを入力して起動します。

```
$ RUN SYS$SYSTEM:JSNAPRE Return
```

このコマンドを入力すると，JSNAPRE は次のように JSNAPREDET プロセスを捜します。

- 論理名 JSNAPRE$HOST が定義されている場合は，この論理名に割り当てられているノード上の JSNAPREDET プロセスを捜します。
- 論理名 JSNAPRE$HOST が定義されていない場合は，JSNAPRE コマンドを入力した現在のノード上の JSNAPREDET プロセスを捜します。見つからないときは，メッセージを表示してクラスタ内のすべてのノード上を捜します。

JSNAPREDET プロセスが見つからなかった場合は，システム管理者は JSNAPREDET プロセスを作成しなければなりません。
JSNAPREDET プロセスを見つけると，次のようにプロンプトが端末に表示されます。

```
JSNAPRE>
```

このプロンプトに対して JSNAPRE コマンドを入力します。

次に示す例のようにシンボル定義を使用することにより，JSNAPRE 起動のコマンドを置き換えることができます。

```
$ JSNAPRE == "$SYS$SYSTEM:JSNAPRE"
```

このように定義すると，次のようなコマンドを入力するだけで JSNAPRE ユーティリティを起動することができます。

```
$ JSNAPRE Return
JSNAPRE>
```

またシンボル定義を行った場合には，JSNAPRE コマンドを続けて入力することも可能です。

```
$ JSNAPRE START PRT10
$
```

JSNAPRE JSNAPRE を起動
START　コマンド
PRT10　キャラクタリスティックス名

この入力では JSNAPRE ユーティリティ・コマンド (上の例の場合は START) を実行すると，JSNAPRE ユーティリティは終了して DCL モードに戻ります。キャラクタリスティックス名に関する詳細は，本章の第 3 節および第 6 節を参照してください。

JSNAPRE ユーティリティでは，コマンドラインのリコールが可能です。コマンドラインは最大 255 文字までで，コメントも入力できます。

1.2.2　ヘルプ情報

OpenVMS ヘルプと日本語 PrE ヘルプの 2 つが用意されています。 OpenVMS ヘルプを参照する場合には，次のコマンドを入力します。

```
$ HELP @JSYHELP JSNAPRE
```

このヘルプは日本語 PrE の概要とその起動方法に関する情報を表示します。さらに詳しい情報が必要な場合には，JSNAPRE ユーティリティを起動した後で HELP コマンドを使用してください。

HELP コマンドの形式は，次のように入力します。

HELP [項目[項目]]

"項目 "はヘルプ・ユーティリティの項目です。

単に HELP と入力すると， HELP 項目の一覧が表示されます。

```
JSNAPRE> HELP
```

特定の項目についてのヘルプ情報は，次のように項目名を続けて入力します。

```
JSNAPRE> HELP SET
```

1.2.3 キャラクタリスティックスの定義

IBM システムとの接続を開始する前に，その接続のキャラクタリスティックス (characteristics) を定義しなければなりません。キャラクタリスティックスを定義するには， SET CHARACTERISTICS コマンドとその修飾子を使用します。このコマンドで，アクセス名，サーキット，セッション・アドレス，ゲートウェイ・ノード，出力先など，さまざまな設定を定義します。接続を開始するときに， JSNAPRE コマンドにこれらのキャラクタリスティックス名を指定します。

```
JSNAPRE> SET CHARACTERISTICS PRT10
```

SET CHARACTERISTICS コマンドには OpenVMS OPER 特権が必要です。付録 A で， SET CHARACTERISTICS コマンドについて更に詳しく説明します。

1.2.4 キャラクタリスティックスの表示

SHOW CHARACTERISTICS コマンドで，すでに定義されているキャラクタリスティックスを表示することができます。

```
JSNAPRE> SHOW CHARACTERISTICS PR8
    SESSION ADDRESS:   8      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     NOIMAGE     KANA
    NOKEISEN
    COPIES:            1      FORM NUMBER: DEFAULT       NODELETE
    QUEUE:           LN05_QUEUE                          USER NAME: DEFAULT
    ACCESS NAME:     IMS                                 WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:PR8.LIS
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:PR8.LOG
JSNAPRE>
```

SHOW CHARACTERISTICS コマンドの詳細については付録 A を参照してください。

1.2.5 日本語 PrE の開始

適切なキャラクタリスティックスの定義を行った後，START コマンドに続けてキャラクタリスティックス名を指定して IBM システムとの接続を開始します。

```
JSNAPRE> START PRT8
```

START コマンドについては，第 1.3 節と付録 A で詳しく説明します。

1.2.6 キャラクタリスティックス名

ほとんどの JSNAPRE ユーティリティ・コマンドでは，コマンドを入力した後にキャラクタリスティックス名を指定しなくてはいけません。これを省略すると，キャラクタリスティックス名を要求するプロンプトが表示されます。

```
JSNAPRE> SHOW STATUS Return
Characteristics-name:
```

USE コマンドを使用すれば，毎回同じキャラクタリスティックス名を入力する手間を省くことができます。 USE コマンドで，指定したキャラクタリスティックス名を省略値にすることができます。このコマンドの実行によって，これ以降に入力される JSNAPRE コマンドでは，キャラクタリスティックス名が必要なコマンドであってもキャラクタリスティックス名を入力する必要はありません。 USE コマンドで指定されたキャラクタリスティックス名は，次の USE コマンドが使用されるまで，あるいは JSNAPRE ユーティリティを終了するまで省略値として有効です。

```
JSNAPRE> USE PRT8
```

USE コマンドについての詳細は，第 1.3 節を参照してください。

1.2.7 接続開始後のコマンド入力

接続を開始すると，他の JSNAPRE コマンドを入力することができます。他のユーザが接続を開始した場合は，そのユーザと同じUIC（ User Identification Code ）を持っていなくてはなりません。 OpenVMS OPER 特権を持っているユーザは，どの接続に対してもコマンドを入力することができます。

1.2.8 修飾子

いくつかのコマンドには，複数の修飾子を指定することができます。修飾子を指定すると，前に指定したキャラクタリスティックスを上書きすることもできます。たとえば， SHOW STATUS コマンドに対して/FULL という修飾子を次のように入力します。

```
JSNAPRE> SHOW STATUS/FULL キャラクタリスティックス名
```

1.2.9 ユーザの特権

TMPMBX 特権とNETMBX 特権は， JSNAPRE コマンドを入力するために最低限必要な特権です。キャラクタリスティックスを定義するにはBYPASS 特権と OPER 特権も必要です。この他のコマンドにも，他のユーザに影響を及ぼす可能性があるために， OPER 特権を要求するものがあります (付録 A を参照)。特権のないユーザが特権を必要とするコマンドを入力すると，次のようなメッセージが表示されます。

```
%SNAPRE-E-NOPRIV, この操作には OPER 特権が必要です。
```

1.2.10 JSNAPRE のメッセージ

JSNAPRE には次の 3 つのタイプのメッセージがあります。

- 端末に表示されるメッセージ
  - 入力したコマンドが完全でない場合

  - オペレーションが成功したことの報告
  - 重大なエラーが発生したことの報告
- 接続を開始または終了したときに，コンソールまたはオペレータ端末に表示されるメッセージ。これは JSNAPREDET プロセスより，接続の開始と終了を知らせます。
- イベント・ログ・ファイルに出力されるメッセージ

  接続を開始するたびに， JSNAPRE はログ・ファイルを作成します。 IBM システムからデータを受信し，ディスク上のファイルまたはプリンタに出力するときには，ログ・ファイルにそのことが書き込まれます。 JSNAPREDET プロセスが存在している間の状態メッセージとエラー・メッセージが，ログ・ファイルに書き込まれます。ログ・ファイルについては第 1.4 節で詳しく説明します。

各メッセージの説明については，付録 B を参照してください。

1.2.11 JSNAPRE ユーティリティの終了

JSNAPRE ユーティリティを終了させるには，EXIT コマンドまたは Ctrl/Z を入力します。このコマンドを入力すると， JSNAPRE ユーティリティから DCL モードに戻りますが，開始されている接続は終了せずにそのまま続行します。これは，バックグラウンド・プロセスが JSNAPRE ユーティリティと独立に動作しているからです。接続を終了させるには， JSNAPRE ユーティリティの STOP コマンドを入力します。

コマンドの形式は次のとおりです。

```
EXIT

Ctrl/Z
```

たとえば，次のように使用します。

```
JSNAPRE> EXIT Return
$
```

1.3 日本語 PrE の制御

この章では，接続の開始方法， IBM システムからの印刷データの受信と制御について説明します。

1.3.1 概要

日本語 PrE を次のような順序で制御します。

1. START コマンドで IBM システムとの接続を確立する（第 1.3.2 項参照）
2. IBM システムからの印刷データを受信する（第 1.3.5 項参照）
3. STOP コマンドで IBM システムとの接続を終了する（第 1.3.4 項参照）

1.3.2 接続の開始

接続を開始するには START コマンドを使用します。 START コマンドを入力するときには，同時にキャラクタリスティックス名を指定します。

START コマンドの形式：

START [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

1.3.2.1 START コマンドの修飾子

特定のキャラクタリスティックスを使用する場合は，START コマンドで修飾子を使用して，定義されている設定値を上書きすることができます。

修飾子の中には省略値を持たないものもあります。修飾子を使用しない場合には，SET CHARACTERISTICS コマンドで指定されている値が使用されます。キャラクタリスティックスの一覧は，SHOW STATUS コマンドを使用して表示します。

修飾子でセッション・アドレスとイベント・ログ・ファイル名を指定しても上書きすることはできません。

/ACCESS_NAME = アクセス名

インターコネクト・システム・アクセス名を指定します。アクセス名は，ゲートウェイが IBM システムにアクセスするために必要なパラメータです。このアクセス名には，サーキット名が含まれることもあります。サーキット名を指定したときには，このアクセス名は指定する必要がありません。

/CASE = UPPER|MIXED

印刷データ中の 1 バイト英文字コードを大文字のみで出力するのか，大文字と小文字の混在で行うかを指定します。この修飾子は LU タイプ 3 のセッションの場合に有効ですが，LU タイプ 1 では無効です。

/CASE = UPPER を指定すると，日本語 PrE は全ての英小文字を英大文字に直してから出力ストリームに送ります。/CASE = MIXED を指定すると，そのままの文字で出力ストリームに送られます。これは/NOKANA が指定されたときにのみ有効です。

/[NO]CHARACTER_SET [= 1 バイト変換テーブル]

IBM システムで使用されている，EBCDIC コードからのコード変換を行う変換テーブル名を指定します。

指定されたファイルには，1 バイト変換テーブルが入っていなくてはなりません。/NOCHARACTER_SET を指定すると，日本語 PrE が内部で持っている 1 バイト変換テーブルが省略値として使用されます。1 バイト変換テーブルの作成方法については，『DECnet SNA OpenVMS Gateway Management Guide』を参照してください。1 バイト変換テーブルのディレクトリを指定しない場合，SYS$LIBRARY: が省略時のディレクトリとなります。

/[NO]CIRCUIT = サーキット名

ゲートウェイと IBM システムとの間のサーキット名を指定します。サーキット名については，インターコネクト・システムのマネージメント・ガイドを参照してください。アクセス名の中でサーキット名が定義されているときには，指定する必要はありません。設定されている値をキャンセルするときには，/NOCIRCUIT を指定します。

/COPIES = コピー数

1 ~ 255 までのコピーの数を指定します。

/[NO]DELETE

正常に印刷された後，そのファイルを削除するかどうかを指定します。まだ印刷されていない場合，または異常が発生して印刷できなかった場合には削除されません。

/[NO]EXTERNAL = 外字管理ファイル名

IBM 社の IBM 文字セットにおける IBM 付加文字や IBM ユーザ定義文字を，DEC 拡張漢字文字セットのユーザ定義領域に，どのように対応付けるかを定めた外字管理ファイルを指定します。このファイルは jsnaknjdef ユーティリティにより作成，管理されます。 jsnaknjdef ユーティリティの使用法については，付録 D を参照してください。指定した外字管理ファイルをキャンセルするときには，/NOEXTERNAL を指定します。ファイルのディレクトリを指定しない場合は， SYS$LIBRARY: が省略時のディレクトリとなります。

/[NO]FORM [= フォーム・タイプ]

プリント・ジョブのフォーム・タイプを，フォーム名または 0 ~ 9999 までの範囲のフォーム番号で指定します。フォーム・タイプは，印刷イメージの大きさや紙のタイプを指定します。/NOFORM を指定すると，日本語 PrE はその印刷装置の省略フォーム・タイプを使用します。

/GATEWAY = ノード名

使用するゲートウェイノードを指定します。

/[NO]IMAGE

この修飾子は， LU タイプ 3 のハード・コピー印字の場合に有効です。/IMAGE を指定すると，受信データは IBM3270 端末の画面イメージと同じ形式でファイルに出力されます。/NOIMAGE を指定すると，印刷データ形式でファイルに出力されます (空白行が取り除かれます)。空白行をそのまま残したいときには/IMAGE を指定してください。

/[NO]KANA

/KANA を指定すると， IBM システムから送信されるデータに，英数カナ文字セットを使用するように指定します。また， IBM システムからの半角カナの前後には， LS2R/LS3R のエスケープ・シーケンスが挿入されます。英小文字セットを使用する場合は，/NOKANA を指定してください。/KANA を指定した場合，IBM システムからの半角カナの各文字の前には SS2(シングル・シフト 2) のエスケープ・シーケンスが挿入されます。ロッキング・シフトで半角カナを出力させたい場合は，エグゼクティブ・モードでシステム論理名 JSNAPRE$KANA に "LS"を定義します。

/[NO]KEISEN

受信したデータに罫線が含まれている場合に，印刷データに行間罫線を挿入するかどうかを指定します。/KEISEN を指定すると行間罫線が印刷されます。設定されている値をキャンセルする場合は，/NOKEISEN を指定してください。罫線を印刷した場合，印刷データの行の先頭に DECRLBR エスケープ・シーケンスが挿入されます。これを印刷するためには，出力装置が行間罫線に対応していなければなりません。

/LENGTH = 印刷最大行数

1 ページに印刷する最大行数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 999 までです。 IBM システム上で設定されている値と等しい値を指定する必要があります。インターコネクト・システム管理者か IBM システム・プログラマーに指定する数を問い合わせてください。

/LUPASSWORD = パスワード

LU のパスワードを指定します。このパスワードは， LU パスワード機能を持っているゲートウェイを使用する場合にのみ有効です。 LU パスワードは， SET CHARACTERISTICS コマンドでキャラクタリスティックスを定義するときには指定できません。 START コマンドで使用する必要があます。 LU パスワードは，A–Z， 0–9，ピリオド (.)，ドルサイン ($)，アットマーク (@)，シャープ (#) からなる 32 文字までの文字列です。 LU パスワードについては，インターコネクト・システム管理者に問い合わせてください。

/OUTPUT_STREAM = 出力ストリーム

IBM システムから受信したデータの出力先である，出力ストリームを指定します。出力ストリームを指定しない場合は，ログイン・ディレクトリのキャラクタリスティックス名.LIS が省略値となります。

/[NO]QUEUE[= キュー名]

受信したデータをプリント・キューにスプール出力するのかどうかを指定します。/QUEUE をプリント・キュー名なしで指定した場合は SYS$PRINT が省略値です。前に指定したキュー名をキャンセルするときには，/NOQUEUE を指定します。

/SPACING = SINGLE|DOUBLE

印刷行の間に空白行を挿入するかどうかを指定します。この修飾子は LU タイプ 3 のセッションの場合に有効です。

/[NO]USER[= ユーザ名]

プリント・ジョブのユーザ名を指定します。ユーザ名は最大 12 文字までです。指定するユーザ名は，OpenVMS で認識されるユーザ名でなくてはなりません。このユーザ名は，OpenVMS の SHOW QUEUE コマンドでの表示とプリント・ジョブのフラグ・ページで使用されます。前に指定したユーザ名をキャンセルして OpenVMS の省略値を使用するときには，/NOUSER を指定します。

/[NO]WAIT

/WAIT を指定すると，IBM システムからの BIND を受信するのを待ちます（IBM システムからの受動的セッション確立）。/NOWAIT を指定すると INIT-SELF を送信します（能動的セッション確立）。

/WIDTH = 印刷最大桁数

１行に印刷する最大桁数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 999 までです。この値は IBM システム上で設定された値と等しくなくてはなりません。指定する値については，インターコネクト・システム管理者か IBM システム・プログラマーに問い合わせてください。

1.3.2.2 START コマンドの使用例

START コマンドの使用例を示します。

```
JSNAPRE> START/QUEUE=SYS$PRINT/USER=NISHIDA PRT3
%SNAPRE-S-CONNECT, キャラクタリスティックス名 PRT3 を使用して IBM ホストとの接続
が開始されました。JSNAPRE V1.2A
JSNAPRE>
```

1.3.2.3 START コマンドのリトライ機能

リトライ機能を使用すると，IBM システムとの接続に失敗した場合や，確立した接続に異常が発生した場合でも，日本語 PrE は自動的に指定された間隔にしたがって START コマンドを実行します。

リトライ間隔は，エグゼクティブ・モードでシステム論理名 JSNAPRE$RETRY_INTERVAL に OpenVMS デルタ時間をダブル・クォーテーション (") で囲んで定義します。

```
$ DEFINE/SYSTEM/EXECUTIVE JSNAPRE$RETRY_INTERVAL "0 00:15:00"
```

1.3.3 日本語 PrE へのデータ送信

一度接続が開始されると，IBM システムはいつでも日本語 PrE へデータの送信を行うことができます。本書の第 1.4 章に，日本語 3270TE で日本語 DECnet SNA プリンタ・エミュレータ for OpenVMS にデータを送信する方法が説明してあります。

1.3.4 接続の終了

接続を終了させるには，STOP コマンドを使用します。 STOP コマンドを使用するときには，同時にキャラクタリスティックス名を指定します。 START コマンドで接続を開始させたユーザのみが，STOP コマンドで終了させることができます。接続を終了させる前に，異常が発生していないかどうかイベント・ログ・ファイルで確認してください (第 4.2 章を参照)。

STOP コマンドの形式：

STOP [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

STOP コマンドには次の修飾子を指定することができます。

/IMMEDIATE

接続を即座に終了させます。

次の 2 つの例は，現在のセッションが終了したときに接続を終了させる場合と，即座に接続を終了させる場合の例です。

- 現在のセッションが終了したときに接続を終了させる場合

```
JSNAPRE> STOP PRT6
%SNAPRE-S-STOPEOS, キャラクタリスティックス名 PRT6 の現在のセッションが終了したとき接続が終了します。
JSNAPRE>
```

日本語 PrE は，IBM システムから受信しているデータを出力ストリームに送り終えてから接続を終了させます。失われるデータはありません。

- /IMMEDIATE を指定して，即座に接続を終了させる場合

```
JSNAPRE> STOP/IMMEDIATE PRT6
%SNAPRE-S-STOPPING, キャラクタリスティックス名 PRT6 の接続が終了しました。
JSNAPRE>
```

日本語 PrE は STOP コマンドが入力されるまで，受信したデータを出力ストリームに送ります。残りのデータが失われるかどうかは，IBM システムの適用業務プログラムに依存します。

1.3.5 データの制御

日本語 PrE が受信するデータを制御するには，次の 4 つのコマンドを使用します。

- PA1
- PA2
- SWITCH
- CANCEL

注意

これらのコマンドは，セッションが確立中のときのみ使用できます。

1.3.5.1 PA1 コマンドと PA2 コマンド

PA1 と PA2 は，IBM3283 型印刷装置についているキーです。これらのキーを入力すると，IBM システムに特定のメッセージが送られます。 IBM システムの適用業務プログラムは，このメッセージを解釈します。たとえば漢字端末印刷プログラムの場合，PA1 はすべてのドキュメントを再び印刷するよう IBM システムに通知します。 PA2 は，ドキュメントの特定の部分を再び印刷するよう IBM システムに通知します。

PA1 コマンドと PA2 コマンドは印刷装置のキーをエミュレートしています。これらのキーがどのように作用するかは，IBM システムのシステム・プログラマにお尋ねください。

このコマンドは，LU タイプ 1 のセッションの場合に有効です。このタイプのセッションでは，IBM システムは SNA 文字列フォーマットでデータを送信します。したがって，このコマンドは，LU タイプ 3 のセッションでは使えません。

PA1 と PA2 のコマンド形式：

PA1 [キャラクタリスティックス名]
PA2 [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名

このコマンドを使用するときにはキャラクタリスティックス名を指定します。

```
JSNAPRE> PA1 PRT6
```

1.3.5.2 SWITCH コマンド

SWITCH コマンドは，ある接続に対するキャラクタリスティックスの設定値を動的に変更するときに使用します。たとえば，接続を終了させないでキュー名，フォーム番号，コピーの数，ユーザ名，出力ストリームを変更することができます。

SWITCH コマンドの形式：

SWITCH [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

1.3.5.3 SWITCH コマンドの修飾子

SWITCH コマンドを使用するときに同時に修飾子を指定することにより，キャラクタリスティックスで与えられている設定値を上書きすることができます。これらの修飾子には省略値はありません。設定されているキャラクタリスティックスを確認するには, SHOW CHARACTERISTICS コマンドを使います (第 1.4 節を参照)。

/COPIES = コピー数

1 ~ 255 までのコピーの数を指定します。

/[NO]DELETE

正常に印刷された後に，そのファイルを削除するように指定します。印刷されていない場合，または異常が発生して印刷できなかった場合には削除されません。

/[NO]FORM [= フォーム番号]

プリント・ジョブのフォーム・タイプを，フォーム名または 0 ~ 9999 までの範囲のフォーム番号で指定します。フォーム・タイプは印刷イメージの大きさや紙のタイプを指定します。/NOFORM を指定すると，日本語 PrE はその印刷装置の省略フォーム・タイプを使用します。

/OUTPUT_STREAM = 出力ストリーム

IBM システムがデータを送信する出力ストリーム，あるいは装置名を指定します。出力ストリームを指定しないと，すでに定義してあるキャラクタリスティックス名のあるログイン・ディレクトリのキャラクタリスティックス名.LIS にデータを送信します。ファイルを何も指定しないと，日本語 PrE は省略時の設定を指定します。

/[NO]QUEUE[= キュー名]

受信したデータを，プリント・キューにスプール出力するかどうかを指定します。/QUEUE をプリント・キュー名なしで指定した場合は， SYS$PRINT が省略値です。前に指定したキュー名をキャンセルするには，/NOQUEUE を指定します。

/[NO]USER[= ユーザ名]

プリント・ジョブのユーザ名を指定します。ユーザ名は最大 12 文字まで入力できます。指定するユーザ名は， OpenVMS で認識されるユーザ名でなくてはなりません。このユーザ名は， OpenVMS の SHOW QUEUE コマンドでの表示とプリント・ジョブのフラグ・ページで使用されます。前に指定したユーザ名をキャンセルして OpenVMS の省略値を使用するには，/NOUSER を指定します。

1.3.5.4 SWITCH コマンドの例

SWITCH コマンドを使用するときには，キャラクタリスティックス名を指定します。

```
JSNAPRE> SWITCH/OUTPUT_STREAM=NEW_PRT6.LIS PRT6
```

現在の出力ストリームがファイルで，しかも/OUTPUT_STREAM で出力ストリームを指定しなかった場合には，日本語 PrE はこのファイルの新しいバージョンにデータを送信します。

1.3.5.5 CANCEL コマンド

CANCEL PRINT は IBM3283 型印刷装置についているキーです。 IBM システムの適用業務プログラムがそのキーの意味を決めます。日本語 PrE の CANCEL コマンドはこのキーをエミュレートしています。 CANCEL PRINT キーがどのような意味を持つかは，IBM システムのシステム・プログラマにお尋ねください。

CANCEL コマンドは，LU タイプ 1 のセッションの場合に有効です。 LU タイプ 3 では使えません。

CANCEL コマンドの形式：

CANCEL [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名　　定義済みのキャラクタリスティックス名

このコマンドを使用するときにはキャラクタリスティックス名を指定します。

```
JSNAPRE> CANCEL PRT6
```

1.3.6 コマンドの使用例

この章で説明したコマンドの使用例を次に示します。

```
$ RUN SYS$SYSTEM:JSNAPRE
JSNAPRE> START PRT1
(JSNAPRE> PA1 PRT1)
JSNAPRE> SWITCH/OUTPUT_STREAM=NEW_PRT1.LIS PRT1
JSNAPRE> PA2 PRT1
JSNAPRE> CANCEL PRT1
JSNAPRE> STOP/IMMEDIATE PRT1
```

1.3.7 USE コマンド

USE コマンドは，キャラクタリスティックス名の省略値を定義します。 USE コマンドでキャラクタリスティックス名の省略値が与えられると，それ以降に入力するコマンドでキャラクタリスティックス名が必要な場合であっても，それを省略することが可能です。

USE コマンドで与えられた省略値は，次の USE コマンドで別の省略値を与えるか，JSNAPRE ユーティリティを終了するまで有効です。

USE コマンドの形式：

USE キャラクタリスティックス名

キャラクタリスティックス名　　定義済みのキャラクタリスティックス名

このコマンドを使用するときにはキャラクタリスティックス名を指定します。

```
JSNAPRE> USE PRT6
```

たとえば，SHOW STATUS コマンドを入力する前に USE コマンドでキャラクタリスティックス名を指定して省略値を決めておけば，キャラクタリスティックス名を指定せずに SHOW STATUS コマンドを入力することができます。

```
JSNAPRE> USE PRT6
JSNAPRE> SHOW STATUS
```

1.4　日本語 PrE の情報

この章では，MONITOR コマンドおよび SHOW コマンドを使用して表示される，日本語 PrE の情報について説明します。次の情報を見ることができます。

1. IBM システムから受信するデータの会話型モニタリング
2. 状態情報または異常情報の入ったイベント・ログ・ファイル
3. キャラクタリスティックスの内容
4. 1 つまたは複数の接続の情報

1.4.1　MONITOR コマンド

MONITOR コマンドを使用して，IBM システムから受信しているデータのモニタリングを行うことができます。 MONITOR コマンドは会話型のみで使用します。データが出力ストリームに送られている間，そのデータは同時に MONITOR コマンドの入力した端末にも表示されます。Ctrl/Z を入力するとモニタリングは終了します。

注意

MONITOR コマンドは，セッションが確立中のときのみ使用することができます。 1 つのセッションを同時に複数の人がモニタリングすることはできません。

ある環境下で，特に IBM システムから何もデータが送信されていないときに MONITOR コマンドを使用すると， OpenVMS システムに余分な負荷をかけることになります。したがって，すでに高い負荷がかかっている OpenVMS システムでは，この MONITOR コマンドを頻繁に使用することは避けてください。

MONITOR コマンドの形式：

MONITOR キャラクタリスティックス名

キャラクタリスティックス名　　定義済みのキャラクタリスティックス名

このコマンドを入力するときには，キャラクタリスティックス名を指定します。

```
JSNAPRE> MONITOR PRT6
   .
   .
   .
Ctrl/Z
JSNAPRE>
```

PA1，PA2，SWITCH，CANCEL コマンドを使用するときには，この MONITOR コマンドが便利です。これらのコマンドの 1 つを入力する時点でCtrl/Zを入力してモニタリングを終了してからコマンドを入力します。

1.4.2　イベント・ログ・ファイル

日本語 PrE が動作している間，日本語 PrE はエラー・メッセージや状態メッセージをイベント・ログ・ファイルに送信します。 START コマンドを入力するたびに，イベント・ログ・ファイルが作成されます。イベント・ログ・ファイル名はキャラクタリスティックスで設定されています。

SHOW LOG_FILE のコマンド形式：

SHOW LOG_FILE [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名　　定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子　　定義されている設定値を上書きする

イベント・ログ・ファイルのメッセージ形式:

date time %SNAPRE-*ident*，*text*

date　メッセージがログ・ファイルに送られた日付
time　メッセージがログ・ファイルに送られた時刻
ident　メッセージＩＤ
text　メッセージ

イベント・ログ・ファイルに出力するメッセージについては，付録 B で説明します。

次に，SHOW LOG_FILE コマンドの使用例を示します。

```
JSNAPRE> SHOW LOG_FILE PRT3

24-JUL-1992 15:32:42.32 %SNAPRE-CONNECT, キャラクタリスティックス名 PRT3 を使用
して IBM ホストとの接続が開始されました。JSNAPRE V1.2A

24-JUL-1992 15:34:30.29 %SNAPRE-SESACT, セッションが開始されました。1 次 LU は N
4KJDSP1, 出力ストリームは DISK$:[NISHIDA]PRT3.LIS;1 です。

24-JUL-1992 15:35:00.69 %SNAPRE-I-FILCOP, 印刷データは DISK$:[NISHIDA]PRT3.LIS;1
 出力ストリームにコピーされました。

JSNAPRE>
```

1.4.3 キャラクタリスティックス・ファイル

SHOW CHARACTERISTICS コマンドで，特定の接続のキャラクタリスティックスを見ることができます。

SHOW CHARACTERISTICS コマンドの形式：

SHOW CHARACTERISTICS [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名　　定義済みのキャラクタリスティックス名

次に SHOW CHARACTERISTICS コマンドの使用例を示します。

```
JSNAPRE> SHOW CHARACTERISTICS PRT31
    SESSION ADDRESS:  31      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     NOIMAGE     KANA
    NOKEISEN
    COPIES:            1      FORM NUMBER: DEFAULT       NODELETE
    QUEUE:           LN05_QUEUE                          USER NAME: DEFAULT
    ACCESS NAME:     IMS                                 WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:PRT31.LIS
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:PRT31.LOG
JSNAPRE>
```

1.4.4 接続の状態

SHOW STATUS コマンドで，特定の接続の状態と現在使用しているキャラクタリスティックス名を見ることができます。

SHOW STATUS コマンドの形式：

SHOW STATUS [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

次の修飾子は詳細な情報を表示するときに使用します。

/FULL

セッションの状態，現在使用しているキャラクタリスティックス名，および現在の設定を表示します。

ここで表示されるキャラクタリスティックスは，キャラクタリスティックス・ファイルの内容とは異なっている場合があることに注意してください。接続を開始するときの START コマンドの修飾子で，キャラクタリスティックス・ファイルの内容を上書きした場合，または SWITCH コマンドの修飾子で設定を変更した場合は，キャラクタリスティックス・ファイルで指定した内容と異なります。この接続が現在使用している設定が表示されます。

次に SHOW STATUS コマンドの使用例を示します。

```
JSNAPRE> SHOW STATUS PRT31
%SNAPRE-S-LU1, キャラクタリスティックス名 PRT31 の LU タイプ 1 (SCS) セッション
が開始されています。
JSNAPRE>

JSNAPRE> SHOW STATUS/FULL PRT31
%SNAPRE-S-LU1, キャラクタリスティックス名 PRT31 の LU タイプ 1 (SCS) セッション
が開始されています。
    SESSION ADDRESS:  31      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     NOIMAGE     KANA
    NOKEISEN
    ACCESS NAME:     IMS                                 WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:PRT31.LIS;
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:PRT31.LOG;
JSNAPRE>
```

2

インストレーション・ガイド

2.1 インストレーションの準備

日本語 PrE をインストールする前に OpenVMS システムでインストールをするための準備をします。

日本語 PrE をインストールすると，日本語 PrE に関連するファイルがシステム・ディスクにコピーされます。インストレーションを行う前に，システム・ディスクをバックアップしておくことをお勧めします。

注意

特に注記のない限り，本書ではゲートウェイは DECnet SNA Gateway を意味します。

2.1.1 ディストリビューション・キットの確認

インストレーションを行う前に， BOM（ Bill Of Materials ）に書かれているディストリビューション・キットの内容がすべてそろっているかどうか確認してください。キットの破損や不足があった場合には，最寄りの日本 DEC の各支店 / 営業所にお問い合わせください。日本語 PrE のキットは，磁気テープ，カセットテープのいずれかのメディアとマニュアル等のドキュメントから構成されています。

2.1.2 OpenVMS システムの必要事項

ここでは，日本語 PrE をインストールするために必要となる OpenVMS システムの条件について説明します。インストールの前に，ソフトウェア，システム特権，ディスク・スペースの設定についてそれぞれ理解しておいてください。

2.1.2.1 インストレーションの必要事項

以下にインストレーションに必要な事項を説明します。

2.1.2.1.1 必要なソフトウェア 日本語 PrE V1.2A には，日本語 OpenVMS VAX V6.0 または日本語 OpenVMS AXP V1.5 以降と，それに対応しているバージョンのDECnet–VAXが必要です。日本語 PrE は，適切なオペレーションのために次のシステム構成が必要です。

- DECnet SNA Gateway-ST を使用する場合は，DECnet ネットワークの一部になっている。

2.1.2.1.2 サポートされるプロセッサ 日本語 PrE の『ソフトウェア仕様書（SPD）』には，正式にサポートされるプロセッサの一覧を示してあります。

2.1.2.1.3 DECnet SNA Gateway 正式にサポートされる DECnet SNA Gateway のソフトウェアとハードウェアの詳細は, 日本語 PrE の『ソフトウェア仕様書（SPD）』を参照してください。

表 2–1 では，日本語 PrE をインストールするのに必要な項目を示します。

表 2–1 インストレーション必要事項

必要項目	内容
配布メディア	OpenVMS VAX システムの場合： TK50 テープ・カセット配布キットまたは 9 トラック 1600BPI 磁気テープ または「日本語 OpenVMS Consolidated Software Distribution」 CD-ROM

	OpenVMS AXP システムの場合：
	「日本語 OpenVMS AXP ソフトウェア・ライブラリ」CD-ROM
必須ソフトウェア	日本語 OpenVMS VAX V6.0 または日本語 OpenVMS AXP V1.5
	DECnet–VAXエンド・ノードまたはフル・ファンクション・ノード・ライセンス
	DECnet SNA Gateway-ST V1.2
特権	システム管理者レベル
OpenVMS VAX システムの場合に必要なディスク・スペース	インストレーション中は 1100 ブロック
	インストレーション後は 760 ブロック
OpenVMS AXP システムの場合に必要なディスク・スペース	インストレーション中は 2100 ブロック
	インストレーション後は 1450 ブロック
インストールに必要な時間	2 ~ 5 分
PAK	日本語 PrE に対する PAK
関連資料	『Guide to OpenVMS Software Installation』にはインストレーションについての説明があります。
	『OpenVMS System Manager's Reference Manual』にはユーザ・アカウントの設定について説明されています。

2.1.2.2 OpenVMS ライセンス管理機能（LMF）

日本語 PrE をインストールする前に，必ずライセンス管理機能 (LMF： License Management Facility) を使用してプロダクト・オーソライゼーション・キー (PAK： Product Authorization Key) を登録およびロードしてください。 PAK は製品と共にお届けする用紙で，ライセンスに関する情報が記述されています。

インストレーション実行中に，日本語 PrE のライセンス登録と PAK のロードを行ったかどうかの問い合わせがあります。これらを行っていない場合でも，インストレーションを完了することはできますが，日本語 PrE の起動およびインストレーション検証プロシージャ (IVP： Installation Verification procedure) の実行はできません。ライセンス登録と PAK のロードを行うことにより，日本語 PrE の起動と IVP の実行が可能となります。

ライセンスの登録とロードを行うには，まずシステム管理者のアカウントにログインし，次のコマンドを入力します。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSLICENSE.COM
```

プロンプトにしたがって PAK に記載されている情報を入力してください。 LMF に関する詳細は，OpenVMS ドキュメント・セットの『OpenVMS License Management Utility Manual』を参照してください。

2.1.2.3 必要な OpenVMS テーラリング

日本語 PrE をインストールする前に，次の OpenVMS 構成要素がインストールされていなければなりません。

- OpenVMS Required Save Set
- Network Support
- Secure User's Environment
- Utilities

詳細については， OpenVMS のテーラ・ドキュメントを参照してください。

2.1.2.4 オンライン・リリース・ノートへのアクセス

日本語 PrE は，オンライン・リリース・ノートを提供しています。本製品をインストールする前に，必ずこのリリース・ノートをお読みください。オンライン・リリース・ノートは，インストール・コマンド起動時のオプションのパラメータに OPTIONS N を指定すると，インストレーション中に参照または印刷することができます。リリース・ノートには，最新バージョンでの機能拡張や，インストレーション・プロシジャの変更などが記述されています。

インストレーションの終了後にリリース・ノートを見るには，
SYS$HELP:JSNAPRE012A.
RELEASE_NOTES をタイプまたは印刷してください。

2.1.3 バックグラウンド・プロセスの確認

日本語 PrE をインストールした後， OpenVMS の SHOW SYSTEM コマンドでバックグラウンド・プロセス (JSNAPREDET) が実行されているかどうか確認してください。実行している場合は， WORLD 特権を付けて STOP/IDENTIFIER=*pid* コマンド（ *pid* は JSNAPREDET プロセスのプロセス ID ）で終了させてください。

2.1.4 インストレーション検証プロシージャ (IVP) の必要事項

IVP を実行する場合は，次の事項を知っておく必要があります。

- ゲートウェイ・ノード名
- アクセス名
- セッション・アドレス

注意

VMSINSTAL を起動する前に DECnet をシャットダウンするようにお勧めします。ただし，IVP を実行するには DECnet を起動しなくてはなりません。詳細は『OpenVMS Software Installation Guide』をご覧ください。

2.1.5 VMSINSTAL の必要事項

日本語 PrE のインストレーションは VMSINSTAL を使用して行います。システムは質問に答えるように要求してきますが，ほとんどの質問には YES(Y)，または NO(N) と答えるだけです。また，各質問では次のように省略時の返答（この場合は YES）も表示されます。

[YES]：

単に Return を入力して，省略時の値 YES と答えることができます。

VMSINSTAL を起動したら，次の事項を確認してください。

- 特権アカウントでログインしているかどうか
- インストレーションに必要なクォータがあるかどうか
- すべてのユーザがログアウトしているかどうか
- DECnet がシャットダウンしているかどうか

VMSINSTAL がインストレーション実行中に，なんらかの問題が発生した場合には，インストレーションを続けるかどうかの問い合わせがあります。そのまま続ける場合

には YES，終了する場合には NO か，あるいは Return を入力します。この場合には問題を解決して，再びインストレーションを行ってください。

2.1.5.1 特権

日本語 PrE をインストールするためには特権が必要です。システム管理者のアカウントにログインしてください。

2.1.5.2 ディスク・スペース

日本語 PrE をインストールする前に，システム・ディスクに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。次のコマンドで確認できます。

```
$ SHOW DEVICE system-disk
```

SHOW DEVICE コマンドについては『OpenVMS DCL Dictionary』のマニュアルを参照してください。

2.1.5.3 システム・パラメータ

日本語 PrE の利用形態に合わせて， SYSGEN パラメータの CHANNELCNT を調整してください。日本語 PrE の必要とする CHANNELCNT は次のとおりです。

CHANNELCNT $\geq$ 20 + 6 X* + Y*

X* : 同時にスタートさせるセッション数
Y* : 同時にスタートさせる JSNAPRE ユーティリティ数

SYSGEN パラメタの調整方法については『System Management Volume 1B Setup』を参照してください。

2.1.5.4 プロセス・クォータ

日本語 PrE の利用形態に合わせて，バックグラウンド・プロセスのプロセス・クォータを調整してください。調整の必要なクォータは Open File Quota と Buffered I/O Quota です。どちらのクォータも次の式で算出してください。

Open File Quota または Buffered I/O Quota $\geq$ 4 X* + 10

X* : 同時にスタートさせるセッション数

プロセス・クォータは，スタートアップ・ファイル SYS$STARTUP:JSNAPRE $STARTUP.COM 内の RUN コマンドの修飾子で指定されます。 Open File Quota は/FILE， Buffered I/O Quota は/IO_BUFFERにより指定されます。

2.1.5.5 DECnet パラメータ

日本語 PrE の利用形態に合わせて NCP パラメータの最大論理リンク数 (MAXIMUM LINKS) を調整してください。日本語 PrE のスタートさせる最大論理リンク数は次のとおりです。

$$\text{MAXIMUM LINKS} \geq X^* + 2\,Y^*$$

X*： 同時にスタートさせるセッション数
Y*： 同時にスタートさせる JSNAPRE ユーティリティ数

NCP パラメタの調整方法については『OpenVMS Networking Manual』を参照してください。

2.1.6 システム・ディスクのバックアップ

インストレーションのはじめに， VMSINSTAL はシステムのバックアップをとっているかどうかを問い合わせます。どのようなソフトウェアでも， OpenVMS 上にインストールする前には，システム・ディスクのバックアップをとっておくことをお勧めします。バックアップ・プロシージャの詳細については， OpenVMS ドキュメント・セットのバックアップ・ユーティリティに関する節を参照してください。

2.2 日本語 PrE のインストレーション

この章では日本語 PrE のインストレーションの方法について説明します。インストレーションはステップごとに進められます。付録 A では， PAK 情報および VMSINSTAL を使用した実際のインストレーションの例を掲載します。

2.2.1 インストレーションの手順

日本語 PrE のインストレーションは，いくつかの質問とメッセージの表示により進められます。インストレーションには 2 ~ 5 分程度かかります。

2.2.1.1 VMSINSTAL の起動

ハードコピー端末を使用して，インストレーションのログを残しておくことをお勧めします。ハードコピー端末がない場合は，次のコマンドを使用して，インストレーションのログをファイルとして作成することができます。

```
$ SET HOST 0/LOG=ファイル名
```

ファイル名は，ログファイルを格納するファイル名です。

ステップ 1：システム管理者のアカウントにログイン

インストレーションを行うためには， VMSINSTAL コマンド・プロシージャを特権アカウント (たとえば， SYSTEM アカウント) から起動します。

```
Username: SYSTEM  Return
Password:         Return
```

ステップ 2： VMSINSTAL の起動

次のコマンドで VMSINSTAL を起動します。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL JSNAPREnnn ddcn: OPTIONS N
```

製品名の中の*nnn*にはバージョン番号を入力してください。たとえば V1.2A であれば JSNAPREA012(OpenVMS AXP 版は JSNAPREAA012 です) とします。

*ddcn*はメディアをマウントするデバイスの名前です。*dd*はデバイス名，*c*はコントローラ ID，*n*はユニット番号です。

OPTIONS N はオプションのパラメータです。これを指定すると，リリース・ノートを表示および印刷することができます。これを指定しない場合には， VMSINSTAL はプロンプトの表示，リリース・ノートの表示，および印刷を行いません。実際にインストレーションを行なう前に，リリース・ノートをお読みください。

次のメッセージが表示されます。

```
          OpenVMS Software Product Installation Procedure Vn.n

It is dd-mmm-yyyy at hh::mm.
Enter a question mark (?) at any time for help.
```

ステップ 3：インストレーション続行の選択

VMSINSTAL を実行しているときに，他のプロセスがシステムで実行されている場合には，次のような警告メッセージが表示されます。

```
%VMSINSTAL-W-ACTIVE, The following processes are still active:
```

このメッセージが表示された場合には，次の質問が表示されます。

```
* Do you want to continue anyway [NO]?
```

操作を継続する場合には， YES と入力してください。 NO と答えると VMSINSTAL プロシージャはただちに終了します。

ステップ 4：システム・ディスクのバックアップの確認

インストレーションの前に，システム・ディスクのバックアップ・コピーがあるかどうか確認します。

```
* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]?
```

ステップ 5：メディアのマウント

ディストリビューション・メディアからインストレーションを行う場合には， VMSINSTAL はメディアをデバイスにマウントしたかどうか確認します。メディアをマウントしようとすると， VMSINSTAL は準備ができたかどうか問い合わせてきます。

```
Please mount the first volume of the set on ddcn:
* Are you ready? YES
```

ステップ 6：インストレーションの開始

VMSINSTAL は指定されたデバイスにメディアがマウントされ，インストレーションが開始されたことを通知します。

```
%MOUNT-I-MOUNTED, JSNAPRE mounted on _ddcn:
The following products will be processed:
JSNAPRE Vn.n

    Beginning installation of JSNAPRE Vn.n at hh::mm

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product saveset A...
```

V*n.n*は自動的に日本語 PrE のバージョンに置き換えられます。たとえば V1.2A のようになります。

ステップ 7：リリース・ノート・オプション

VMSINSTAL の起動時に OPTIONS N を選択した場合は，次のようにリリース・ノートの選択一覧が表示されます。

```
Additional Release Notes Options:

    1.  Display release notes
    2.  Print release notes
    3.  Both 1 and 2
    4.  None of the above

Select option [2]:
```

オプション 1 を選択すると，VMSINSTAL は端末にリリース・ノートを表示します。表示を中止したいときには Ctrl/C を入力します。

オプション 2，または 3 を選択すると VMSINSTAL はプリント・キュー名を示すように指示してきます。

```
Queue name [SYS$PRINT]:
```

キュー名を入力します。省略値であるプリント・デバイス SYS$PRINT に印刷したい場合には Return キーを入力します。

どのオプションを選択した場合でも，VMSINSTAL はインストレーションを続行するかどうか問い合わせてきます。インストレーションを続ける場合には YES を，中止する場合には NO を入力します。

```
* Do you want to continue the installation? YES
%VMSINSTAL-I-RELMOVED, The products release notes have been successfully
moved to SYS$HELP.
```

ステップ 8：ファイルのパージ

このインストレーションにより，前のバージョンの日本語 PrE のファイルをパージするかどうかを選択します。ディスク・スペースを有効に使用するためには，パージすることをお勧めします。

```
* Do you want to purge files replaced by this installation [YES]?
```

ステップ 9： IVP の選択

インストレーション終了後，自動的に IVP を起動するかどうかを選択します。日本語 PrE の IVP は，インストレーションが成功したかどうかを検証します。 IVP を実行させることをお勧めします。

```
* Do you want to run the IVP after the installation [YES]?
```

ステップ 10： IVP の実行

IVP の質問に対して YES と答えた場合には IVP が自動的に起動され，次のメッセージが表示されます。

```
Starting PrE Installation Verification Procedure (IVP)
```

IVP が開始されたら，アクセス名，ゲートウェイ・ノード名，セッション・アドレスを入力してください。これらを入力すると，次の順番で IVP が実行されます。

1. キャラクタリスティックス・ファイルの作成
2. このキャラクタリスティックスの表示
3. 接続の開始
4. 接続の終了
5. 接続のイベント・ログ・ファイルの表示

イベント・ログ・ファイルの内容が JSNAPRE-CONNECT と JSNAPRE-STOPPING，または JSNAPRE-SESACT と JSNAPRE-SESNOLACT のメッセージであることを確認してください。

最後に，インストレーションが完了したことを通知する次のようなメッセージが表示されます。

```
Installation of JSNAPRE Vn.n completed at hh::mm
VMSINSTAL procedure done at hh::mm
```

2.2.2　インストレーションの後に

インストレーションが正常に終了したかどうかは，VMSINSTAL のインストレーション中か，または SYS$TEST にコピーされた JSNAPRE$IVP.COM を実行させたときのどちらかで確認されます。 JSNAPRE$IVP.COM はインストレーションが正しく行なわれたかどうかを検証しますが，IBM システムとインターコネクト・システム間の接続は検証しません。 IVP に関しては，第 2.2.2.2 項でも説明します。

2.2.2.1　インストレーションにより作成されるファイル

日本語 PrE のインストレーションにより，次のファイルが作成されます。

表 2–2　日本語 PrE のファイル一覧

ファイル名	説明
SYS$HELP:JSNAPREHLP.HLB	日本語 PrE ヘルプ・ライブラリ
SYS$SYSTEM:JSNAPRE.EXE	ユーザ・インタフェース
SYS$SYSTEM:JSNAPREDET.EXE	バックグラウンド・プロセス
SYS$STARTUP:JSNAPRE$STARTUP.COM	スタートアップ・コマンド・ファイル
SYS$STARTUP:JSNAPRE$DETACHED.COM	スタートアップ・コマンド・ファイルが使用するコマンド・ファイル
SYS$MESSAGE:JSNAPRE$MSG_EN.EXE	標準版メッセージ・ファイル
SYS$MESSAGE:JSNAPRE$MSG_JA.EXE	日本語 PrE メッセージ・ファイル
SYS$TEST:JSNAPRE$IVP.COM	日本語 PrE インストレーション検証プロシジャ
SYS$SYSTEM:JSNAKNJDEF.EXE	jsnaknjdef ユーティリティ
SYS$HELP:JSNAKNJDEF.HLB	jsnaknjdef メッセージ・ファイル
SYS$HELP:JSNAPRE012A.RELEASE_NOTES	日本語 PrE オンライン・リリース・ノート

2.2.2.2　インストレーション検証プロシジャ

IVP（Installation Verification Procedure：インストレーション検証プロシジャ）は，インストレーションが正しく行なわれたかどうかを検証します。 IVP は独立プロセスを作成して接続の開始と終了を行い，ログ・ファイルを表示します。何か問題が発生したときには，まず最初に IVP を実行させます。インストレーション後に IVP を実行させるには，次のコマンドを入力します。

```
$@SYS$TEST:JSNAPRE$IVP
```

IVP が失敗したときには，問題を修正して再度 IVP を起動してください。

注意

IVP の実行には SYS$TEST のディレクトリが必要です。 IVP の実行中，SYS$TEST のディレクトリに IVP の実行に必要なファイルが一時的に作成され，IVP 終了時に削除されます。

2.2.2.3 日本語 PrE の起動

VMSINSTAL の終了後，バックグラウンド・プロセスを作成するコマンド・プロシジャ JSNAPRE$STARTUP.COM を実行してください。

システムをリブートしたときには，必ずこのコマンド・プロシジャを実行してください。このコマンドを実行するには，システムのスタートアップ・ファイル SYS$MANAGER:SYSTARTUP_VMS.COM に次のコマンドを追加してください。

```
$ @SYS$STARTUP:JSNAPRE$STARTUP パラメー
タ1* パラメータ2*
```

パラメータ 1*	日本語 PrE のキャラクタリスティックス・ファイルがあるディスクとディレクトリを定義します
パラメータ *2**	日本語 PrE のエラー・ストリームとするファイル，またはデバイスを定義します。イベント・ログ・ファイルに送られないエラー・メッセージはここに送られます。

たとえば，キャラクタリスティックス・ファイルを SYS$COMMON:[JPRE]に置いて，エラー・ストリームを SYS$COMMON:[JPRE]ERROR.OUT とすると次のようなコマンドになります。

```
$@SYS$STARTUP:JSNAPRE$STARTUP SYS$COMMON:[JPRE] -
_$SYS$COMMON:[JPRE]ERROR.OUT
```

注意

キャラクタリスティックス・ファイルのファイル・タイプは.SCF です。同じディレクトリにあるキャラクタリスティックス・ファイル以外のファイルに.SCF というファイルタイプを使用しないでください。また，F-PrE，H-PrE または標準版 PrE のキャラクタリスティックス・ファイルと同じディレクトリを使用しないでください。

2.2.2.4 START コマンドにおけるリトライ機能

スタートアップ・コマンド・ファイルはバックグラウンド・プロセスを作成すると同時に，表 2–3 にある論理名を定義します。リトライ機能を使用する場合は，JSNAPRE$RETRY_INTERVAL 論理名をスタートアップ・コマンド・ファイルの中で定義することをお勧めします。リトライ機能の詳細については『日本語 DECnet SNA プリンタ・エミュレータ for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』の第 3 章を参照してください。

表 2–3 日本語 PrE の論理名

論理名	意味
JSNAPRE$CHARACTERISTICS	キャラクタリスティックス・ファイルを格納するディレクトリを定義する。
JSNAPRE$ONE_FILE_PER_BRACKET	日本語 PrE は EBI（End Bracket Indicator：ブラケット終了標識）をファイルの終了とみなす。

2.2.2.5 製品のテスト

日本語 PrE をインストールしてバックグラウンド・プロセスを作成したら，すべてのソフトウェア製品（インターコネクト・システム，日本語 PrE），ハードウェア（インターコネクト・システム， IBM システムとのリンク）が正しく動作するかどうかをテストしてください。

何か問題が発生した場合には『日本語 DECnet SNA プリンタ・エミュレータ for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』を参照してください。日本語 PrE のすべてのエラー・メッセージが説明されています。

2.2.2.6 VAX クラスタでの日本語 PrE の実行

クラスタ上の複数のノードで日本語 PrE を使用できるよう，必要なソフトウェア・ライセンスがあるかどうかを確認してください。日本語 PrE をインストールしたら，次のステップにしたがって設定してください。

1. JSNAPREDET プロセスを作成するノードで， JSNAPRE$STARTUP.COM コマンド・プロシジャを実行します。次に， VAX クラスタ内のそれぞれのノードで JSNAPRE$STARTUP.COM コマンド・プロシジャを実行します。最初に作成された JSNAPREDET プロセスが終了するまでは，その他のノードでは JSNAPREDET プロセスは作成されません。
2. バックグラウンド・プロセスを作成するノードに，システム実行論理名 JSNAPRE$HOST を割り当ててください。この論理名により， JSNAPRE ユーティリティは簡単にバックグラウンド・プロセスをさがすことができます。

たとえば，次のようにして論理名 JSNAPRE$HOST にノード VAX001 を割り当てます。

```
$ ASSIGN/SYSTEM/EXECUTIVE VAX001:: JSNAPRE$HOST
```

この論理名により，JSNAPRE ユーティリティはノード VAX001 上のバックグラウンド・プロセスをさがします。

3. それぞれのノードからキャラクタリスティックス・ファイルのディレクトリにアクセスできるかどうかを確認してください。

これで，すべてのクラスタ・ユーザは JSNAPREDET プロセスにアクセスすることが可能となり，IBM システムからのファイルを受信，印刷することができます。

2.2.3 エラー・リカバリ

インストレーションの途中，あるいは IVP を実行している途中でエラーが発生すると，VMSINSTAL はエラー・メッセージを表示します。

次のような状態である場合には，インストレーションの途中でエラーが発生します。

1. オペレーティング・システムのバージョンが不適当である
2. 必要なソフトウェアのバージョンが不適当である
3. インストレーションに必要なクォータが不十分である
4. インストレーションに必要なシステム・パラメータが不十分である
5. OpenVMS のヘルプ・ライブラリを他のユーザが使用している
6. 必要な製品ライセンス (DECnet–VAX) がない
7. 十分なディスク容量がない

上記の原因で発生したエラー・メッセージについては，それぞれの OpenVMS のマニュアル『System Message』『Recovery Procedure』『OpenVMS Software License』を参照してください。この場合には，メッセージを読んで適切な処置を行ってください (システム・パラメータの変更，もしくはクォータを増加しなければならないことがあります)。必要な設定については，本書の第 1 章を参照してください。

2.2.4 問題点の通知

本ソフトウェアについては，日本 DEC の所定のソフトウェア保証基準に定められた保証が提供されますので，その内容にしたがった処置を取ってください。

なお，ご不明な点につきましては，日本 DEC の各支店/営業所にお問い合わせください。

A

日本語 PrE の管理

ここでは，日本語 PrE を管理するための JSNAPRE ユーティリティと修飾子について説明します。これらのコマンドは OpenVMS OPER 特権を持つユーザのみ使用することができます。 START や STOP などのコマンドによっては，日本語 PrE のユーザと管理者の両方で使用できるものもあります。以下で説明する修飾子を各コマンドと使用することにより，それぞれの管理業務を行うことができます。

注意

ここで説明しているコマンドを使用する場合には， OpenVMS OPER 特権が必要です。

A.1 キャラクタリスティックス・ファイルの作成と変更

ここでは，日本語 PrE のキャラクタリスティックス・ファイルの作成とその変更方法について説明します。

A.1.1 日本語 PrE のキャラクタリスティックス・ファイル

日本語 PrE のキャラクタリスティックスを定義すると，キャラクタリスティックスが格納されているキャラクタリスティックス・ファイルと呼ばれるファイルを作成，または変更します。 JSNAPRE ユーティリティのコマンドで指定するキャラクタリスティックス名は，ファイル拡張子を取り除いたキャラクタリスティックス・ファイル名です。たとえば PRT3.SCF が OpenVMS 上のキャラクタリスティックス・ファイル名であるとすると， PRT3 がキャラクタリスティックス名です。キャラクタリスティックス・ファイルの中には， IBM システムとの接続を開始するための情報， OpenVMS のプリント・キューにデータを送るための情報， OpenVMS の RMS ファイルに受信データを入れるために必要な情報，受信データを変換したりフォーマッティングするための情報などが含まれています。

論理名 JSNAPRE$CHARACTERISTICS が示すディレクトリに，すべてのキャラクタリスティックス・ファイルが保管されています。ファイル拡張子は.SCF です。

A.1.2　キャラクタリスティックス・ファイルの作成

キャラクタリスティックス・ファイルを作成するには，SET CHARACTERISTICS コマンドとその修飾子を使用します。このコマンドで，さまざまな設定を定義できます。このキャラクタリスティックス・ファイルは接続を開始するときに使用します。

キャラクタリスティックス・ファイルを作成する際に，必ず指定しなくてはならない 4 つのパラメータがあります。これを指定しないと，入力を促す次のプロンプトが表示されます。

- アクセス名またはサーキット名
- セッション・アドレス
- ゲートウェイ・ノード名
- 出力ストリーム

これらの値については，インターコネクト・システム管理者にお問い合わせください。他のパラメータについてはユーザ自身の値か，または指定しなければ省略値が使用されます。省略値を使用するときには，修飾子を入力しないでください。出力ストリームとイベント・ログ・ファイルに対して，ディスクとディレクトリ指定を省略した場合には，ログイン・ディレクトリが省略値としてそれぞれ与えられます。 1 バイト変換テーブルと外字管理ファイルに対してディレクトリ指定を省略した場合には，SYS$LIBRARY: が省略値としてそれぞれ与えられます。

注意

F-PrE，H-PrE および標準版 PrE と，同じキャラクタリスティックス・ファイルを使用しないでください。

SET CHARACTERISTICS コマンドの形式：

SET CHARACTERISTICS [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	作成しようとする，または定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

A.1.3 SET CHARACTERISTICS コマンドの修飾子

特定のキャラクタリスティックス・ファイルのキャラクタリスティックスを変更するには，SET CHARACTERISTICS コマンドの修飾子を使用して上書きすることができます。表 A–1 は，SET CHARACTERISTICS コマンドに対する修飾子と省略値の一覧です。

表 A–1 SET CHARACTERISTICS コマンドの修飾子と省略値

修飾子	省略値
/ACCESS_NAME = アクセス名	なし
/CASE = UPPER|MIXED	/CASE = MIXED
/[NO]CHARACTER_SET[= 1 バイト変換テーブル]	内部変換テーブル
/[NO]CIRCUIT = サーキット名	アクセス名で与えられている値
/COPIES = コピー数	/COPIES = 1
/[NO]DELETE	/NODELETE
/[NO]EXTERNAL = 外字管理ファイル	なし
/[NO]FORM[= フォーム・タイプ]	なし
/GATEWAY = ノード名	なし
/[NO]IMAGE	/IMAGE
/[NO]KANA	/KANA
/[NO]KEISEN	/NOKEISEN
/LENGTH = 印刷最大行数	/LENGTH = 66
/LOG_FILE = ファイル名	/LOG_FILE = SYS$LOGIN: キャラクタリスティックス・ファイル名.LOG
/OUTPUT_STREAM = ファイル名	/OUTPUT_STREAM = SYS$LOGIN: キャラクタリスティックス・ファイル名.LIS
/[NO]QUEUE[= キュー名]	/QUEUE = SYS$PRINT
/SESSION_ADDRESS = LU アドレス	なし
/SPACING = SINGLE|DOUBLE	/SPACING = SINGLE

(次ページに続く)

表 A–1 (続き) SET CHARACTERISTICS コマンドの修飾子と省略値

修飾子	省略値
/[NO]USER[= ユーザ名]	なし
/[NO]WAIT	/WAIT
/WIDTH = 印刷最大桁数	/WIDTH = 158

/ACCESS_NAME = アクセス名

インターコネクト・システム・アクセス名を指定します。アクセス名は，ゲートウェイが IBM システムにアクセスするために必要なパラメータです。このアクセス名には，サーキット名が含まれることもあります。サーキット名を指定したときには，このアクセス名は指定する必要がありません。

/CASE = UPPER|MIXED

印刷データ中の 1 バイト英文字コードを大文字のみで出力するのか，大文字と小文字の混在で出力するかを指定します。この修飾子は LU タイプ 3 のセッションの場合に有効です。

/CASE = UPPER を指定すると，日本語 PrE はすべての英小文字を英大文字に変換してから出力ストリームに送ります。/CASE = MIXED を指定すると，英小文字と英大文字はそのまま出力ストリームに送られます。これは/NOKANA が指定されたときにのみ有効です。

/[NO]CHARACTER_SET[= 1 バイト変換テーブル]

日本語 PrE が内部で持っている省略値の変換テーブルではない変換テーブルを使用するときに，この修飾子で 1 バイト変換テーブルを指定します。日本語 PrE はこの 1 バイト変換テーブルを使用して， IBM システムで使用されているEBCDIC コードからのコード変換を行います。 1 バイト変換テーブルについては付録 C を参照してください。

指定されたファイルには， 1 バイト変換テーブルが入っていなくてはなりません。/NOCHARACTER_SET を指定すると，日本語 PrE が内部で持っている省略値の 1 バイト変換テーブルが使用されます。 1 バイト変換テーブルの作成方法については，インターコネクト・システムのマネージメント・ガイドを参照してください。ディレクトリ指定を省略した場合には， SYS$LIBRARY: が省略値として与えられます。

この修飾子を使用しないとき，あるいはファイル名を与えないときには，日本語 PrE が内部で持っている 1 バイト変換テーブルが省略値として使用されます。設定されている値をキャンセルするときには/NOCHARACTER_SET を使用しま

す。この場合も，日本語 PrE 内部の 1 バイト変換テーブルが省略値として使用されます。

/[NO]CIRCUIT = サーキット名

ゲートウェイと IBM システムとの間のサーキット名を指定します。サーキット名については，インターコネクト・システムのマネージメント・ガイドを参照してください。アクセス名の中でサーキット名が定義されているときには，指定する必要はありません。設定されている値をキャンセルするときには，/NOCIRCUIT を指定します。

/COPIES = コピー数

1 ~ 255 までのコピー数を指定します。

/[NO]DELETE

正常に印刷された後に，そのファイルを削除するよう指定します。印刷されていないファイルや，異常が発生して印刷できなかったファイルは削除されません。設定されている値をキャンセルするときには，/NODELETE を指定します。

/[NO]EXTERNAL = 外字管理ファイル名

IBM 文字セットにおける拡張文字セットを， DEC 拡張漢字セットにどのように対応付けるかを定めた外字管理ファイルを指定します。このファイルはjsnaknjdef ユーティリティにより作成，管理されます。 jsnaknjdef ユーティリティの使用法については，付録 D を参照してください。ディレクトリ指定を省略した場合には， SYS$LIBRARY: が省略値として与えられます。指定した外字管理ファイルをキャンセルする場合は，/NOEXTERNAL を指定します。

/[NO]FORM[= フォーム・タイプ]

プリント・ジョブのフォーム・タイプを，フォーム名または 0 ~ 9999 までのフォーム番号で指定します。フォーム・タイプは，印刷イメージの大きさや紙のタイプを指定します。フォーム・タイプのコードは印刷装置に依存します。/NOFORM を指定すると，その印刷装置の省略フォーム・タイプを使用します。

/GATEWAY = ノード名

使用するゲートウェイノードを指定します。

/[NO]IMAGE

/IMAGE を指定すると，受信データは IBM3270 端末の画面イメージと同じ形式でファイルに出力されます。/NOIMAGE を指定すると，印刷データ形式でファイルに出力されます (空白行が取り除かれる)。空白行をそのまま残したいときには/IMAGE を指定してください。この修飾子は LU タイプ 3 のハードコピー印字の場合に有効です。

/[NO]KANA

/KANA を指定すると IBM システムから送信されるデータに英数カナ文字セットが指定されます。英小文字セットを使用する場合は，/NOKANA を指定してください。/KANA を指定した場合， IBM システムからの半角カナの各文字の前には SS2(シングル・シフト 2) のエスケープ・シーケンスが挿入されます。ロッキング・シフトで半角カナを出力させたい場合は，エグゼクティブ・モードでシステム論理名 JSNAPRE$KANA に "LS"を定義します。

/[NO]KEISEN

受信したデータに罫線が含まれている場合に，印刷データに行間罫線を挿入するかどうかを指定します。/KEISEN を指定すると行間罫線が印刷されます。設定されている値をキャンセルする場合は，/NOKEISEN を指定してください。罫線を印刷した場合，印刷データの行の先頭に DECRLBR エスケープ・シーケンスが挿入されます。これを印刷するためには，出力装置が行間罫線に対応していなければなりません。

/LENGTH = 印刷最大行数

1 ページに印刷する 1 ~ 999 までの最大行数を指定します。この値は， IBM システム上で設定されている値と等しくなくてはなりません。指定する行数については，インターコネクト・システム管理者か IBM システム・プログラマーに問い合わせてください。

/LOG_FILE = ファイル名

イベント・ログ情報を入れるファイルを指定します。指定しない場合は，ログイン・ディレクトリのキャラクタリスティックス名.LOG が省略値となります。

/OUTPUT_STREAM = 出力ストリーム

IBM システムから受信したデータの出力先である，出力ストリームを指定します。指定しない場合は，ログイン・ディレクトリのキャラクタリスティックス名.LIS が省略値となります。

/[NO]QUEUE[= キュー名]

受信したデータを，指定されたプリント・キューにスプール出力するかどうかを指定します。日本語 PrE がファイルを送信すると，ファイルは自動的に OpenVMS システムから削除されます。 (/NODELETE 修飾子により削除しないこともできます。) /QUEUE をプリント・キュー名なしで指定した場合は，省略値の SYS$PRINT に出力します。指定したキュー名をキャンセルするには，/NOQUEUE を指定します。

/SESSION_ADDRESS = LU アドレス

PLU のアドレスを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 までです。セッション・アドレスがアクセス名に含まれている場合は，その値を上書きします。 NCP LU マクロのLOCADDR オペランドで与えられている値を指定します。

/SPACING = SINGLE|DOUBLE

印刷行の間に空白行を挿入するかどうかを指定します。この修飾子は LU タイプ 3 のセッションの場合に有効です。

/[NO]USER[= ユーザ名]

プリント・ジョブのユーザ名を指定します。ユーザ名は最大 12 文字までです。指定するユーザ名は， OpenVMS で認識されるユーザ名でなくてはなりません。このユーザ名は， OpenVMS の SHOW QUEUE コマンドでの表示とプリント・ジョブのフラグ・ページで使用されます。指定したユーザ名をキャンセルして，OpenVMS の省略値を使用するときには/NOUSER を指定します。

/[NO]WAIT

/WAIT を指定すると， IBM システムからの BIND を待ちます (受動的セッション確立)。/NOWAIT を指定すると， INIT-SELF を送信することにより能動的にセッションを確立します (能動的セッション確立)。

/WIDTH = 印刷最大桁数

１行に印刷する最大桁数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 999 までです。この値は IBM システム上で設定された値と等しくなくてはなりません。指定する値

については，インターコネクト・システム管理者か IBM システム・プログラマーに問い合わせてください。

A.1.4 キャラクタリスティックス・ファイルの使用例

SET CHARACTERISTICS コマンドの使用例を示します。

- 修飾子で明示的に値を与える場合

```
JSNAPRE> SET CHARACTERISTICS/ACCESS_NAME = IMS/CIRCUIT = SNA-0 -
_JSNAPRE>/GATEWAY = SNAGWY/SESSION_ADDRESS = 10 -
_JSNAPRE>/OUTPUT_STREAM = PRT10.DAT/SPACING = DOUBLE PRT10
JSNAPRE>
```

- JSNAPRE ユーティリティのプロンプトを表示させて値を入力する場合。省略値を使用する場合には，プロンプトに対して Return を入力します。

```
JSNAPRE> SET CHARACTERISTICS PRT29/QUEUE = LN03_QUEUE
SNAPRE-I-NEWCHAR , creating new characteristics file PRT29
Access_name []:IMS
Gateway []:SNAGWY
Output_stream [SYS$LOGIN:PRT29.LIS]: Return
Session_address [1]:29
JSNAPRE>
```

A.2 キャラクタリスティックス・ファイルの変更

SET CHARACTERISTICS コマンドとその修飾子を使用して，既存のキャラクタリスティックス・ファイルの内容を変更することができます。変更後，このキャラクタリスティックス・ファイルが使用されるときに変更内容が有効となります。

SHOW CHARACTERISTICS コマンドで，定義済みのキャラクタリスティックスを確認することができます (付録 A.2 を参照) 。

キャラクタリスティックス・ファイルの変更例を示します。この例では，すでに作成されているキャラクタリスティックス・ファイル PRT29 を， SET CHARACTERISTICS コマンドでいくつかの値を変更して，SHOW CHARACTERISTICS コマンドで変更内容を確認します。 SET CHARACTERISTICS コマンドの中でユーザ名を指定した場合のみ，ユーザ名が表示されることに注意してください。

```
JSNAPRE> SHOW CHARACTERISTICS PRT29
    SESSION ADDRESS:  29      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     NOIMAGE     KANA
    NOKEISEN
    COPIES:            1      FORM NUMBER: DEFAULT       NODELETE
    QUEUE:           LN05_QUEUE                          USER NAME: DEFAULT
    ACCESS NAME:     IMS                                 WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:PRT29.LIS
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:PRT29.LOG
JSNAPRE> SET CHARACTERISTICS PRT29/LOG_FILE=SYS$LOGIN:NEW_PRT29.LOG -
_JSNAPRE> /COPIES=2/FORM=31/USER=ASANO/DELETE
%SNAPRE-I-UPDCHAR, 既存のキャラクタリスティックス・ファイル PRT29 を更新しました
。
JSNAPRE>
JSNAPRE> SHOW CHARACTERISTICS PRT29
    SESSION ADDRESS:  29      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     NOIMAGE     KANA
    NOKEISEN
    COPIES:            2      FORM NUMBER:   31          DELETE
    QUEUE:           LN05_QUEUE                          USER NAME: ASANO
    ACCESS NAME:     IMS                                 WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:PRT29.LIS
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:NEW_PRT29.LOG
JSNAPRE>
```

A.2.1 キャラクタリスティックス・ファイルの内容表示

SHOW CHARACTERISTICS コマンドで，キャラクタリスティックス・ファイルの内容を表示させることができます。

SHOW CHARACTERISTICS コマンドの形式：

SHOW CHARACTERISTICS [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

このコマンドには次の修飾子を指定することができます。

/ALL

すべてのキャラクタリスティックス・ファイルとその内容を表示します。キャラクタリスティックス・ファイル名は指定できません。

SHOW CHARACTERISTICS の使用例を次に示します。キャラクタリスティックス・ファイルで/QUEUE，/COPIES，/DELETE，/FORM，/USER_NAME を指定していないと，キャラクタリスティックスは表示されません。

```
JSNAPRE> SHOW CHARACTERISTICS/ALL

  CHARACTERISTICS NAME: PRT29
    SESSION ADDRESS:  29      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     NOIMAGE     KANA
    NOKEISEN
    COPIES:            2      FORM NUMBER:   31          DELETE
    QUEUE:           LN05_QUEUE                          USER NAME: ASANO
    ACCESS NAME:     IMS                                 WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:PRT29.LIS
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:PRT29.LOG

  CHARACTERISTICS NAME: PRT31
    SESSION ADDRESS:  31      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     NOIMAGE     KANA
    NOKEISEN
    COPIES:            1      FORM NUMBER: DEFAULT       DELETE
    QUEUE:           LN05_QUEUE                          USER NAME: KOIZUMI
    ACCESS NAME:     IMS                                 WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:KOIZUMI.LIS
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:KOIZUMI.LOG

  CHARACTERISTICS NAME: PRT6
    SESSION ADDRESS:  33      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     NOIMAGE     KANA
    NOKEISEN
    ACCESS NAME:     IMS                                 WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:PRT6.LIS
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:PRT6.LOG

JSNAPRE>
```

A.3 キャラクタリスティックス・ファイルの削除

キャラクタリスティックス・ファイルを削除するには，REMOVE コマンドを使用します。

REMOVE コマンドの形式：

REMOVE [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名

たとえば，キャラクタリスティックス PRT29 を削除するためには次のようにします。

```
JSNAPRE> REMOVE PRT29
```

A.4 接続の開始 (OPER 特権が必要)

START コマンドで接続を開始します。

START コマンドの形式：

START [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済のキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

特定のキャラクタリスティックス・ファイルの定義されている設定値を変更するには，START コマンドで次に示す修飾子を使用します。これらの修飾子には，省略時値はありません。 OPER 特権なしで指定できる修飾子については，第 1.3.2.1 項をご覧ください。修飾子で指定されなかったものについては，キャラクタリスティックス・ファイルの中の値が使用されます。セッション・アドレスとイベント・ログ・ファイル名は変更できません。

/ACCESS_NAME = アクセス名

インターコネクト・システム・アクセス名を指定します。アクセス名は，ゲートウェイが IBM システムにアクセスするために必要なパラメータです。サーキット名にアクセス名が含まれているときには，このアクセス名を指定する必要はありません。

/[NO]CIRCUIT[= サーキット名]

ゲートウェイと IBM システムとの間のサーキット名を指定します。サーキット名については，インターコネクト・システムのマネージメント・ガイドを参照してください。アクセス名にサーキット名が定義されているときには，このサーキ

ット名を指定する必要はありません。設定されている値をキャンセルするときには，/NOCIRCUIT を指定します。

/GATEWAY = ノード名

使用するゲートウェイノードを指定します。

START コマンドで，異なるインターコネクト・システムを指定する方法を示します。

```
JSNAPRE> START/GATEWAY=SNAGWY PRT3
%SNAPRE-S-CONNECT, キャラクタリスティックス名 PRT3 を使用して IBM ホストとの接続
が開始されました。JSNAPRE V1.2A
JSNAPRE>
```

A.5 接続の終了 (OPER 特権が必要)

接続を終了させるには，STOP コマンドを使用してキャラクタリスティックスを指定します。/ALL 修飾子を使用すると，すべての接続を終了させることができます。

接続を終了させる前にイベント・ログ・ファイルの中を見て，何か異常が発生していないかどうか確認してください。

STOP コマンドの形式： STOP [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

このコマンドには次の修飾子を指定することができます。

/IMMEDIATE

セッションの終了 (UNBIND) 前であっても，接続を即座に終了させます。

/ALL

すべての接続を終了させます。同時に/IMMEDIATE 修飾子を使用すると，すべての接続を即座に終了させます。この修飾子を使用するときには，キャラクタリスティックス・ファイル名を指定しないでください。

次に STOP コマンドの使用例を示します。

- セッション終了時にすべての接続を終了させます。

```
JSNAPRE> STOP/ALL
%SNAPRE-S-STOPEOS, キャラクタリスティックス名 PRT1 の現在のセッションが終了したとき接続が終了します。
%SNAPRE-S-STOPEOS, キャラクタリスティックス名 PRT3 の現在のセッションが終了したとき接続が終了します。
JSNAPRE>
```

日本語 PrE はセッション終了までのすべてのデータを受信し，出力ストリームに送ります。セッション終了時に，接続が終了します。

- すべての接続を即座に終了させます。

```
JSNAPRE> STOP/ALL/IMMEDIATE
%SNAPRE-S-STOPPING, キャラクタリスティックス名 PRT1 の接続が終了しました。
%SNAPRE-S-STOPPING, キャラクタリスティックス名 PRT3 の接続が終了しました。
JSNAPRE>
```

日本語 PrE は， STOP/ALL/IMMEDIATE コマンドを入力した時点までに受信した，すべてのデータを出力ストリームに送ります。

STOP/ALL コマンドは日本語 PrE の接続のみを終了させ，日本語 PrE は終了しません。

A.6 接続の状態表示

SHOW STATUS コマンドで，接続の状態と現在使用しているキャラクタリスティックス名を表示させます。

SHOW STATUS コマンドの形式：

SHOW STATUS [修飾子] [キャラクタリスティックス名]

キャラクタリスティックス名	定義済みのキャラクタリスティックス名
修飾子	定義されている設定値を上書きする

SHOW STATUS コマンドでは，次の 2 つの修飾子が使用できます。

/FULL

接続の状態を詳細に表示します。セッションの状態，現在使用しているキャラクタリスティックス名とその内容が表示されます。

/ALL

すべての接続の状態と，現在使用しているキャラクタリスティックス名を表示させます。この修飾子に，キャラクタリスティックス名を指定しないでください。/FULL と/ALL を同時に指定すると，すべての接続についての状態を詳細に表示します。

ここで表示される情報は，キャラクタリスティックス・ファイルの内容とは異なっている場合があります。 START コマンドまたは SWITCH コマンドを使用して，すでにあるキャラクタリスティックス・ファイルの内容を上書きしてあると，キャラクタリスティックスは指定した値と異なります。

SHOW STATUS コマンドの使用例を示します。

```
JSNAPRE> SHOW STATUS/ALL
%SNAPRE-E-NOTACT, キャラクタリスティックス名 PRT1 の接続は IBM ホストによって開
始されていません。
%SNAPRE-S-LU3, キャラクタリスティックス名 PRT3 の LU タイプ 3 (3270) セッション
が開始されています。
JSNAPRE>



JSNAPRE> SHOW STATUS/FULL PRT3
%SNAPRE-S-LU3, キャラクタリスティックス名 PRT3 の LU タイプ 3 (3270) セッション
が開始されています。
    SESSION ADDRESS:   9      PAGE LENGTH:   66          PAGE WIDTH: 158
    CASE:   MIXED    SPACING:     SINGLE     IMAGE     KANA
    NOKEISEN
    ACCESS NAME:     IMS                               WAIT
    GATEWAY:         SNAGWY
    OUTPUT STREAM:   SYS$LOGIN:PRT3.LIS;
    LOG_FILE:        SYS$LOGIN:PRT3.LOG;
JSNAPRE>
```

B

日本語 PrE メッセージ

この章では，日本語 PrE によりコンソール端末，ユーザの端末，イベント・ログ・ファイルに出力されるメッセージについて説明します。

B.1 メッセージの形式

メッセージのフォーマットは，表示される場所によっていろいろと変わります。

B.1.1 コンソール端末に表示されるメッセージ

日本語 PrE は接続の開始，終了時にメッセージをコンソール端末に出力します。このメッセージをコンソール以外の端末に表示させたいときには，DCL の SET REPLY/ENABLE コマンドを入力してください。
次のようなメッセージが表示されます。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 日付 時刻
Message from user SYSTEM
DECnet/SNA PrE: Connection initiated using characteristics name
キャラクタリスティックス名

%%%%%%%%%% OPCOM 日付 時刻
Message from user SYSTEM
DECnet/SNA PrE: Background process exiting, check its error stream

%%%%%%%%%% OPCOM 日付 時刻
Message from user SYSTEM
DECnet/SNA PrE: Connection terminated using characteristics name
キャラクタリスティックス名
```

B.1.2 ユーザ端末に表示されるメッセージ

ユーザ端末へのメッセージは，標準の OpenVMS のエラー・メッセージの形式で出力されます。

facility-l-ident, text

facility メッセージを出力したプログラムまたはファシリティ名
l 重大度レベル

レベル	重大度	説明
S	成功	ユーザのコマンドは正常に実行された
I	情報	ソフトウェアでとられた処置に関する報告
W	警告	修正処置を取る必要がないエラー状態
E	エラー	致命的ではないが，処理または修正の必要がある状態
F	重大なエラー	致命的であり，処理または修正の必要がある状態

ident メッセージ ID
text メッセージの説明

続いて，2 つめのメッセージが表示されます。2 つめのメッセージは問題の詳細を示します。

B.1.3 イベント・ログ・ファイルのメッセージ

イベント・ログ・ファイルのメッセージ形式：

date time %SNAPRE-ident, text

date 日付
time 時刻
ident メッセージ ID
text メッセージ

SHOW LOG_FILE コマンドを使用すると，イベント・ログ・ファイルの中のメッセージを見ることができます。

```
JSNAPRE> SHOW LOG_FILE [キャラクタリスティックス名]
```

B.2 メッセージ一覧

次の一覧では，メッセージの内容およびメッセージに対する適切な処置を簡単に説明します。

ABNSESTER, session terminated abnormally
説明: ゲートウェイと IBM システムとの間のリンク，またはゲートウェイと OpenVMS システムとのリンクが切断されました。または IBM システムから PU，LINE 等が非活性状態にされました。
ユーザの対応: リンクが切断された原因を調べてください。 IBM システムとのリンクが再確立された時点で再試行します。

ACCROUFAI, error from Gateway access routine
<ゲートウェイ・アクセス・ルーチンからのエラー>
説明: エラーの内容は，後に続くメッセージに依存します。内部エラーかシステムに制限がある可能性があります。
ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者に連絡してください。

ACCTOOLON, access name is too long
説明: アクセス名が 8 文字バイトを越えています。
ユーザの対応: アクセス名を修正してください。

ALTSIZEXC, alternate 3270 buffer size *number* x *number* is too big
<代替 3270 バッファー・サイズ*number* x *number*は大きすぎます。>
説明: BIND パラメータ中の代替バッファサイズ (alternate buffer size) が大きすぎます。
ユーザの対応: ACF/VTAM ログオン・モード・テーブルのパラメータを確認してください。

AMBCOM, command abbreviation corresponds to more than 1 command *xxx*
<コマンドがあいまいです。*xxx*に相当するコマンドが 1 つ以上あります。>
説明: コマンドが短すぎます。
ユーザの対応: コマンドを省略しないで再試行してください。

AMBPARAM, parameter abbreviation corresponds to more than 1 parameter abbreviation *xxx*
<パラメータがあいまいです。*xxx*に相当するパラメータが 1 つ以上あります。>
説明: パラメータが短すぎます。
ユーザの対応: パラメータを省略しないで再試行してください。

AMBQUAL, qualifier abbreviation corresponds to more than 1 qualifier abbreviation *xxx*
<修飾子があいまいです。*xxx*に相当する修飾子が 1 つ以上あります。>
説明: 修飾子が短すぎます。
ユーザの対応: 修飾子を省略しないで再試行してください。

ATTSENEBI, attempt to send End Bracket Indicator
<End Bracket Indicator の送信を試みました。>
説明: プロトコル・エラーが発生しました。
ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者または IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。

BADNET, error status returned by DECnet
<DECnet のエラーが発生しました。>
説明: DECnet のエラーが発生しました。
ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者に連絡してください。

BINSPEUNA, the BIND image specified unacceptable values
説明: ゲートウェイが BIND イメージを拒否しました。
ユーザの対応: 回線トレースをとって，原因を調べてください。大きすぎる RU サイズ，不適当な FM/TS プロファイル，ペーシング・パラメータに注意してください。

CHARFNF, characteristics file *characteristics-name* does not exist
<キャラクタリスティックス・ファイル*characteristics-name*がありません。>
説明: 指定したキャラクタリスティックス・ファイルが存在しません。
ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者に連絡してください。

CHARRMS, error in accessing characteristics file *characteristics-name*

<キャラクタリスティックス・ファイル*characteristics-name*にアクセスする際，エラーが発生しました。>

説明: 指定したキャラクタリスティックス・ファイルにアクセスできませんでした。次のようなメッセージが続きます。

RMS-E-PRV, insufficient privilege or file protection violation

このメッセージは，ファイルが読めないか，書き込めなかったことを示します。ゲートウェイ管理者に連絡して，JSNAPRE$CHARACTERISTICS で割り当てられているディレクトリ，およびその上のディレクトリのアクセス権について確認してください。 SET CHARACTERISTICS コマンドを使用するには，読込み，書込みアクセスの両方が必要です。

ユーザの対応: この後に続くメッセージに依存します。

CHARUPD, PrE session characteristics updated

<日本語 PrE セッションはキャラクタリスティックスを更新しました。>

説明: SWITCH コマンドを使用したときに出力されます。

ユーザの対応: なし。

CHECK, cannot access JSNAPRE$CHARACTERISTICS

<JSNAPRE$CHARACTERISTICS で定義されたディレクトリ内のキャラクタリスティックス・ファイルにアクセスできませんでした。>

説明: キャラクタリスティックス・ファイルがオープンできませんでした。

ユーザの対応: 論理名 JSNAPRE$CHARACTERISTICS が正しく定義されているかどうか確認してください。

CIRNOTAVA, circuit has not been activated

説明: サーキットが活性状態ではありません。

ユーザの対応: IBM からライン，PU 等の状態を確認し，必要であれば活性状態にするよう VTAM オペレータに依頼してください。活性状態であれば，ゲートウェイと IBM システムとの間でハードウェア障害が発生している可能性があります。

CIRNOTSPE, circuit name was not specified

説明: サーキット名を指定していません。 START コマンド，または SET CHARACTERISTICS コマンドを使用するときには，/CIRCUIT 修飾子でサーキット名を指定しなければなりません。

ユーザの対応: /CIRCUIT で正しいサーキット名を入力してください。

CIRTOOLON, circuit name is too long

説明: サーキット名が長すぎます。

ユーザの対応: 正しいサーキット名を入力してください。

COMPAR, either access name or circuit name must be specified

<アクセス名かサーキット ID のうちどちらかが指定されなければなりません。>

説明: キャラクタリスティックスを設定するときに，アクセス名またはサーキット名が指定されていません。

ユーザの対応: /ACCESS_NAME または/CIRCUIT 修飾子を使用して値を入力してください。アクセス名にサーキット名が含まれている場合は，アクセス名のみを指定します。

CONNECT, connection started with IBM host using characteristics name *characteristics-name*, JSNAPRE V1.2A

<キャラクタリスティックス名*characteristics-name*を使用して IBM ホストとの接続が開始されました。 JSNAPRE V1.2>

説明: メッセージ中のキャラクタリスティックス名を使用して接続が開始されました。

ユーザの対応: なし。

CONREQREJ, connect request rejected by IBM host, sense code *IBM-sense-code*

説明: IBM システムが，メッセージ中のセンス・コード付きで接続要求を拒絶しました。

ユーザの対応: センス・コードの意味を明らかにし，適切な処置をしてください。

CREJOB, error creating job

<ジョブを作成する際，エラーが発生しました。>

説明: バックグラウンド・プロセスが，ジョブ・コントローラにジョブをサブミットしているときにエラーが発生しました。

ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

DATTOOLON, too much user data specified

説明: ユーザ・データが 128 バイトを越えています。

ユーザの対応: ユーザ・データを修正してください。

DOUBLE, the PrE background process is already running

<日本語 PrE バックグラウンド・プロセスは既に起動されています。>

説明: すでにバックグラウンド・プロセスが起動されています。

ユーザの対応: すでに起動されているバックグラウンド・プロセスを使用してください。それを終了させたい場合は，次のようにしてください。

1. OpenVMS の SHOW SYSTEM コマンドで，バックグラウンド・プロセス (JSNAPREDET) のプロセス ID（ PID ）を調べます。
2. OpenVMS WORLD 特権を付けます。
3. STOP/IDENTIFICATION=プロセス ID コマンドで， JSNAPREDET プロセスを終了させます。

ERRCOND, internal error in error handler

<エラー・ハンドラーで内部のエラーが発生しました。>

説明: 日本語 PrE がエラーを報告する際に，別のエラーを発見しました。後に続くメッセージでその理由を報告します。

ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

ERRNET, error on DECnet link with user interface

<ユーザ・インタフェースで DECnet リンクのエラーが発生しました。>

説明: DECnet が予期しないエラーメッセージを送信しました。

ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

ERROPN, RMS error opening event log file
<イベント・ログ・ファイルをオープンする際，RMS エラーが発生しました。>
説明: イベント・ログ・ファイルをオープンできませんでした。
ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

ERRSUB, error submitting to job controller
<ジョブ・コントローラへサブミットする際，エラーが発生しました。>
説明: ジョブ・コントローラにファイルをサブミットできませんでした。
ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

EXIT, gateway server task terminated
<ゲートウェイ・タスクの異常終了>
説明: メッセージの内容は，後に続くメッセージに依存します。内部エラー，もしくはシステムに制約がある可能性があります。
ユーザの対応: ゲートウェイ管理者に連絡してください。

EXPCHAERR, chaining error on outbound expedited flow
<IBM ホストから送出されたフローで，連鎖エラーが発生しました。>
説明: プロトコル・エラーです。
ユーザの対応: ゲートウェイ管理者または IBM システムのシステム管理者に連絡してください。

EXPFMDREC, FMD RU received on expedited flow
<送出されたフローで FMD RU を受信しました。>
説明: プロトコル・エラーです。
ユーザの対応: ゲートウェイ管理者または IBM システムのシステム管理者に連絡してください。

EXPNC_REC, network control (NC) RU received on the expedited flow
<送出されたフローでネットワーク制御 (NC) RU を受信しました。>
説明: プロトコル・エラーです。
ユーザの対応: ゲートウェイ管理者または IBM システムのシステム管理者に連絡してください。

EXTERR, error in accessing external table

<外字管理テーブル・ファイルにアクセスする際，エラーが発生しました。>

説明: 指定された外字管理ファイルが使用できません。

ユーザの対応: 正しい外字管理ファイルを指定してください。

FAIALLEVF, failed to allocate an event flag

<イベント・フラグの確保に失敗しました。>

説明: このメッセージの内容は，後に続くメッセージに依存します。内部エラー，もしくはシステムへの高負荷の可能性があります。

ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者に連絡してください。

FAIASSCHA, failed to assign a DECnet channel

説明: このエラーは，内部の異常な状態を示します。

ユーザの対応: 後に続く DECnet のメッセージを調べてシステム管理者に報告してください。

FAICREMBX, failed to create a mailbox

説明: ゲートウェイと通信を行うためのメール・ボックスを作成できませんでした。メール・ボックスを作成するために必要なクオータ (BYTLM) が不足しているか，十分な特権が与えられていない可能性があります。

ユーザの対応: 後に続くメッセージを調べて適切な処置をしてください。特権が足りない場合は，TMPMBX 特権を付けてください。

FAIESTLIN, failed to establish a DECnet link to the Gateway

説明: 日本語 PrE がゲートウェイにアクセスできませんでした。

ユーザの対応: 後に続くメッセージを調べて，適切な処置をしてください。

FAIESTSES, failed to establish session

<セッションの確立に失敗>

説明: IBM システムが，日本語 PrE とセッションを開始できませんでした。

ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

FATNET, error on DECnet link with user interface

<ユーザ・インタフェースで DECnet リンクのエラーが発生しました。>

説明: DECnet に重大な異常が発生しました。

ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

FILCOP, print data copied to *name* output stream

<印刷データは*name*出力ストリームにコピーされました。>

説明: 出力ストリームにデータがコピーされました。

ユーザの対応: なし。

FILE, new output stream *name*

<出力ストリームが*name*に変更されました。>

説明: SWITCH コマンドで，出力ストリームを他のファイルまたはデバイスに変更すると，このメッセージが表示されます。

ユーザの対応: なし。

FMTFMDREC, formatted FMD received

<フォーマットされた FMD を受信しました。>

説明: プロトコル・エラーが発生しました。日本語 PrE はフォーマットされた FMD(Function Management Data) は受信できません。

ユーザの対応: ゲートウェイ・システム管理者または IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。

GATCOMERR, error communicating with Gateway node

<ゲートウェイ・ノードとの通信エラー>

説明: ゲートウェイ・ノードとの DECnet の通信に異常が発生しました。

ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

GATEWAY, gateway must be specified

<ゲートウェイ名が指定されなければなりません。>

説明: キャラクタリスティックス・ファイルを作成するときにゲートウェイ・ノードを指定していません。

ユーザの対応: /GATEWAY 修飾子でゲートウェイ・ノードを指定してください。

INCVERNUM, Gateway access routines are incompatible with the Gateway
説明: ゲートウェイのソフトウェアと日本語 PrE のソフトウェアとのバージョンが不適切です。
ユーザの対応: 正しいバージョンのソフトウェアをインストールしてください。

INSGATRES, insufficient Gateway resources for session establishment
説明: ゲートウェイにセッションを開始するために必要な資源が不足しています。
ユーザの対応: 通信を行っている他のセッションが終了してから再試行してください。

INVDFCREC, invalid Data Flow Control (DFC) RU received
<不適切なデータ・フロー制御 (DFC) RU を受信しました。>
説明: プロトコル・エラーです。
ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者または IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。

INVEXTSTR, invalid external table file specification
<不適切な外字管理テーブル・ファイルが指定されています。>
説明: /EXTERNAL 修飾子で指定したファイル名が不適切です。
ユーザの対応: 正しいファイル名を指定してください。

INVINACC, invalid item in /ACCESS_NAME qualifier *xxx*
</ACCESS_NAME 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /ACCESS_NAME 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINCASE, invalid item in /CASE qualifier *xxx*
</CASE 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /CASE 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINCIRC, invalid item in /CIRCUIT qualifier *xxx*
</CIRCUIT 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /CIRCUIT 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINCOPY, invalid item in /COPIES qualifier *xxx*
</COPIES 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /COPIES 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINFORM, invalid item in /FORM qualifier *xxx*
</FORM 修飾子での*xxx*が不適切です。>
説明: /FORM 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINGATE, invalid item in /GATEWAY qualifier *xxx*
</GATEWAY 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /GATEWAY 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINLEN, invalid item in /LENGTH qualifier *xxx*
</LENGTH 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /LENGTH 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINQUE, invalid item in /QUEUE qualifier *xxx*
</QUEUE 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /QUEUE 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINSES, invalid item in /SESSION_ADDRESS qualifier *xxx*
</SESSION_ADDRESS 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /SESSION_ADDRESS 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINSPAC, invalid item in /SPACING qualifier *xxx*
</SPACING 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /SPACING 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVINWID, invalid item in /WIDTH qualifier *xxx*
</WIDTH 修飾子での値*xxx*が不適切です。>
説明: /WIDTH 修飾子での値が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVLOGSTR, invalid event log file specification
<イベント・ログ・ファイルの指定が不適切です。>
説明: ログ・ファイルの指定が不適切です。
ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

INVOUTSTR, invalid output stream specification
<出力ストリームの指定が不適切です。>
説明: 出力ストリームの指定が不適切です。
ユーザの対応: 正しい値を入力してください。

INVRECLOG, SNA$DEFNUMREC is incorrectly defined
説明: 内部論理名の設定が不適切です。
ユーザの対応: システム管理者に連絡してください。

INVSC_REC, invalid session control (SC) RU received on the expedited flow
<送出されたフローで不適切なセッション・制御 (SC) RU を受信しました。>
説明: プロトコル・エラーです。
ユーザの対応: ゲートウェイ管理者または IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。

INVSEQNUM, RU received with invalid sequence number, rejected with sense code *hex-number*
<不正なシーケンス番号の RU を受信しました。センスコード*hex-number*で拒絶しました。>
説明: プロトコル・エラーです。
ユーザの対応: ゲートウェイ管理者または IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。

INVTRANSTR, invalid character_set file specification
<1 バイト変換テーブルの指定が不適切です。>
説明: /CHARACTER_SET で指定したファイル名が不適切です。
ユーザの対応: 新しい変換テーブルのある，正しいファイル名を指定してください。

ISSTART, connection has already been started
<接続は既に開始されています。>
説明: 接続はすでに開始されています。
ユーザの対応: なし。

JOBSUB, job *name* (queue *name*, entry *number*)
<ジョブ*name* (キュー*name* , エントリ*name*) >
説明: データが受信され，ジョブ・コントローラにサブミットされました。ジョブのステータス・メッセージが表示されます。
ユーザの対応: ジョブが保留か待ち状態になっているときは，ジョブが開始されたかどうかキューを調べてください。

LIBROUFAI, system library routine failed
<システム・ライブラリのルーチンのエラー>
説明: 内部エラーまたはシステム高負荷の可能性があります。
ユーザの対応: ゲートウェイ管理者に連絡してください。

LOGRMS, error in accessing event log file
<イベント・ログ・ファイルにアクセスする際，エラーが発生しました。>
説明: イベント・ログ・ファイルにアクセスできませんでした。
ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

LOGUNIDEA, SSCP has deactivated the session

説明: IBM SSCP は, DACTLU コマンドを送信したことにより非活性状態になりました。 UNBIND コマンドではなく，LU を非活性状態にしたことによりアプリケーションはセッションを非活性状態にします。

ユーザの対応: DACTLU の送信が通常の流れであれば無視してください。問題があれば，システム管理者に連絡してください。

LONG, parameter *parameter* is too long, maximum length is *length*

<パラメータ*parameter*が長すぎます。最大*length*までです。>

説明: 入力したパラメータ値が長すぎます。

ユーザの対応: 正しい長さで入力してください。

LU3, type 3 session in progress for *characteristics-name*

<キャラクタリスティックス名*characteristics-name*の LU タイプ 3 (3270) セッションが開始されています。>

説明: LU タイプ 3 のセッションが開始されています。

ユーザの対応: なし。

MAISIZEXC, default 3270 buffer size *number* x *number* is too big

<要求された 3270 バッファー・サイズ*number* x *number*は大きすぎます。>

説明: LU タイプ 3 のバッファ・サイズの省略値 (default buffer size) が大きすぎます。

ユーザの対応: VTAM LOGON モードのパラメータを調べるように，IBM

システム・プログラマに依頼してください。

NCSCREC, network control/session control (NC/SC) RU received on normal flow

<正常なフローにおいてネットワーク制御 / セッション制御 (NC/SC) RU を受信しました。>

説明: プロトコル・エラーです。

ユーザの対応: ゲートウェイ管理者または IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。

NETSHUT, network node is not accepting connects

<ネットワーク・ノードがコネクションを受け入れることができません。>

説明: DECnet がシャット・ダウンされました。

ユーザの対応: ゲートウェイ管理者に連絡してください。

NEWCHAR, creating new characteristics file *file-spec*
<新しいキャラクタリスティックス・ファイル*file-spec*を作成します。>
説明: SET CHARACTERISTICS コマンドで新しいキャラクタリスティックス・ファイルが作成されました。
ユーザの対応: なし。

NOALL, you cannot specify /ALL and a characteristics name
</ALL 修飾子を指定した場合，キャラクタリステックス名は指定できません。>
説明: STOP/ALL コマンドでキャラクタリスティックス・ファイルを指定しないでください。 STOP/ALL コマンドは，ある特定の接続を停止させるのではなく，すべての接続を停止させます。
ユーザの対応: コマンドを再入力してください。

NOBACK, the PrE background process is not running
<日本語 PrE バックグラウンド・プロセスが起動されていません。>
説明: 日本語 PrE のバックグラウンド・プロセスが存在しません。
ユーザの対応: JSNAPRE$STARTUP.COM を実行して，バックグラウンド・プロセスを作成するようシステム管理者に依頼してください。

NODECNET, DECnet is not available
<DECnet が起動されていません。>
説明: DECnet が起動されていません。
ユーザの対応: DECnet を起動するようゲートウェイのシステム管理者に依頼してください。

NOCHAR, reenter this command with a characteristics-name
<キャラクタリスティックス名を指定して，このコマンドを再入力してください。>
説明: キャラクタリスティックス名が指定されていません。
ユーザの対応: キャラクタリスティックス名を指定してください。

NODATA, no data transfer in progress
<IBM システムはまだデータを送信していません。>
説明: 日本語 PrE は接続を開始しましたが，IBM システムはまだデータを送信していません。
ユーザの対応: なし。

NOPRIV, requires OPER privilege for this operation
<この操作には OPER 特権が必要です。>
説明: OpenVMS OPER 特権がありません。
ユーザの対応: OpenVMS OPER 特権のあるユーザーに，コマンドを入力するよう依頼してください。

NOSUCACC, access name not recognized by Gateway node
説明: アクセス名が不適切です。
ユーザの対応: 正しいアクセス名を指定してください。

NOSUCCIR, circuit name not recognized by Gateway node
説明: サーキット名が不適切です。
ユーザの対応: 正しいサーキット名を指定してください。

NOSUCSES, session address not recognized by Gateway node
説明: セッション・アドレスが不適切です。
ユーザの対応: 正しいセッション・アドレスを指定してください。

NOTACT, connection has not been activated by IBM host for characteristics name *characteristics-name*
<キャラクタリスティックス名*characteristics-name*の接続は IBM ホストによって開始されていません。>
説明: 日本語 PrE は接続を開始しましたが，IBM システムはまだセッションを開始していません。
ユーザの対応: セッションが開始されるのを待ってください。

NOTLU2, PrE does not support LU type 2, which is for a screen
<日本語 PrE はディスプレイ用の LU タイプ 2 をサポートしていません。>
説明: 日本語 PrE は LU タイプ 2 をサポートしていません。
ユーザの対応: IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。誤ったセッション・アドレスを指定したか，またはそのセッションがプリンタに設定されていないことがあります。

NOTSTART, connection has not been started
<接続が開始されていません。>
説明: 接続は開始されていません。
ユーザの対応: コマンドを入力する前，あるいは IBM システムからデータを受信する前に接続を開始させなければなりません。

NOVAL1, value missing in CASE qualifier
< CASE 修飾子に値が指定されていません。>
説明: SET CHARACTERISTICS， START, SWITCH コマンドに，/CASE 修飾子で値を指定していません。
ユーザの対応: /CASE=UPPER または/CASE=MIXED を指定してください。

NOVAL2, value missing in CIRCUIT qualifier
<CIRCUIT 修飾子に値が指定されていません。>
説明: START， SET CHARACTERISTICS コマンドに，/CIRCUIT 修飾子でサーキット名を指定していません。
ユーザの対応: /CIRCUIT でサーキット名を指定してください。

NOVAL3, value missing in SPACING qualifier
<SPACING 修飾子に値が指定されていません。>
説明: SET CHARACTERISTICS， START, SWITCH コマンドに，/SPACING 修飾子で値を指定していません。
ユーザの対応: /SPACING=SINGLE または/SPACING=DOUBLE を指定してください。

NOVAL4, value missing in LENGTH qualifier
< LENGTH 修飾子に値が指定されていません。>
説明: SET CHARACTERISTICS， START, SWITCH コマンドに，/LENGTH 修飾子で値を指定していません。
ユーザの対応: 1 ~ 999 までの値を/LENGTH 修飾子で指定してください。

NOVAL5, value missing in WIDTH qualifier
<WIDTH 修飾子に値が指定されていません。>
説明: SET CHARACTERISTICS， START, SWITCH コマンドに，/WIDTH 修飾子で値を指定していません。
ユーザの対応: 1 ~ 999 までの値を/WIDTH 修飾子で指定してください。

NOVAL6, value missing in SESSION_ADDRESS qualifier

<SESSION_ADDRESS 修飾子に値が指定されていません。>

説明: SET CHARACTERISTICS コマンドに，/SESSION_ADDRESS 修飾子でセッション・アドレスを指定していません。

ユーザの対応: 1 ~ 255 までの値を/SESSION_ADDRESS 修飾子で指定してください。

NOVAL7, value missing in GATEWAY qualifier

<GATEWAY 修飾子に値が指定されていません。>

説明: START， SET CHARACTERISTICS コマンドに，/GATEWAY 修飾子でゲートウェイ名を指定していません。

ユーザの対応: ゲートウェイ名を/GATEWAY 修飾子で指定してください。

NOVAL8, value missing in OUTPUT_STREAM qualifier

<OUTPUT_STREAM 修飾子に値が指定されていません。>

説明: START， SET CHARACTERISTICS， SWITCH コマンドに，/OUTPUT_STREAM 修飾子で出力ストリームを指定していません。

ユーザの対応: 出力ファイルを/OUTPUT_STREAM 修飾子で指定してください。

NOVAL9, value missing in ACCESS_NAME qualifier

<ACCESS_NAME 修飾子に値が指定されていません。>

説明: START， SET CHARACTERISTICS コマンドに，/ACCESS_NAME 修飾子でアクセス名を指定していません。

ユーザの対応: アクセス名を/ACCESS_NAME 修飾子で指定してください。

NOVAL10, value missing in COPIES qualifier

<COPIES 修飾子に値が指定されていません。>

説明: START， SET CHARACTERISTICS， SWITCH コマンドに，/COPIES 修飾子で値を指定していません。

ユーザの対応: 1 ~ 255 までの値を/COPIES 修飾子で指定してください。

NOVAL11, value missing in FORM qualifier
<FORM 修飾子に値が指定されていません。>
説明: START , SET CHARACTERISTICS , SWITCH コマンドに , /FORM 修飾子で値を指定していません。
ユーザの対応: フォーム名または 0 から 9999 までのフォーム番号を/FORM 修飾子で指定してください。

NOVAL12, value missing in EXTERNAL qualifier
<EXTERNAL 修飾子に値が指定されていません。>
説明: /EXTERNAL 修飾子で外字管理ファイルを指定していません。
ユーザの対応: 外字管理ファイルを/EXTERNAL 修飾子で指定してください。

NOVAL13, value missing in LUPASSWORD qualifier
<LUPASSWORD 修飾子に値が指定されていません。>
説明: /LUPASSWORD 修飾子で LU パスワードを指定していません。
ユーザの対応: LU パスワードを/LUPASSWORD 修飾子で指定してください。

NULFSP, file specification is required
<ファイルの指定が必要です。>
説明: ファイル指定を入力していません。
ユーザの対応: 正しいファイル指定を入力してください。

PROUNBREC, IBM application detected a protocol error, sense code *IBM-sense-code*
説明: IBM システムのアプリケーションから , センス・コード付きで UNBIND を受信しました。アプリケーションは , センスコードが示すプロトコル・エラーを検出しました。
ユーザの対応: センス・コードの意味を調べて , 適切な処置をしてください。

RANCOPY, number of copies *copies* out of range, valid range is 1 to 255
<コピー数*copies*は範囲を越えています。有効な範囲は 1 から 255 です。>
説明: /COPIES で指定した値が不適切です。
ユーザの対応: START , SET CHARACTERISTICS , SWITCH コマンドに , 1 ~ 255 までの数を/COPY 修飾子で入力してください。

RANFORM, form number *form* out of range, valid range is 0 to 9999

<フォーム番号*form*は範囲を越えています。有効な範囲は 0 から 9999 です。>

説明: /FORM で指定した値が不適切です。

ユーザの対応: START，SET CHARACTERISTICS，SWITCH コマンドに，0 ~ 9999 までの値を/FORM 修飾子で入力してください。

RANLENGTH, page length *length* out of range, valid range is 1 to 999

<印刷最大行数*length*は範囲を越えています。指定できる範囲は 1 から 999 までです。>

説明: /LENGTH で指定した値が不適切です。

ユーザの対応: START，SET CHARACTERISTICS，SWITCH コマンドに，1 ~ 999 までの値を/LENGTH 修飾子で入力してください。

RANSLU, session address *address* is out of range, valid range is 1 to 255

<セッション・アドレス*address*は範囲を越えています。指定できる範囲は 1 から 255 までです。>

説明: /SESSION_ADDRESS で指定した値が不適切です。

ユーザの対応: SET CHARACTERISTICS コマンドに，1 ~ 255 の値を /SESSION_ADDRESS で入力してください。

RANWIDTH, page width *width* out of range, valid range is 1 to 999

<印刷最大桁数*width*は範囲を越えています。指定できる範囲は 1 から 999 までです。>

説明: /WIDTH で指定した値が不適切です。

ユーザの対応: START，SET CHARACTERISTICS，SWITCH コマンドに，1 ~ 999 までの値を/WIDTH 修飾子で入力してください。

REQREJECT, invalid data received, rejected with sense code *hex-number*

<不正なデータを受信しました。センスコード*hex-number*で拒絶しました。>

説明: プロトコル・エラーが発生しました。センス・コードは，4 桁の 16 進数です。

ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者か IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。

RMSOPN, RMS error opening output stream
<出力ストリームをオープンする際，RMS エラーが発生しました。>
説明: 出力ストリームのオープンができませんでした。
ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

RMSWRT, RMS error writing to output stream
<出力ストリームの書き込み中，RMS エラーが発生しました。>
説明: 出力ストリームへの書込みが出来ませんでした。
ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

SEARCH, searching the cluster for the detached process; please wait
<クラスタ内の独立プロセスを探索中です。しばらくお待ちください。>
説明: このシステム上にはバックグラウンド・プロセスが存在していません。クラスタ上の他のシステムのバックグラウンド・プロセスを探索中です。
ユーザの対応: なし。 "detached process not running"というメッセージが表示された場合は，システム管理者は独立プロセスを開始しなければなりません。あるいは，JSNAPRE>プロンプトが表示されます。

SERV, systems services error
<システムサービスでエラーが発生しました。>
説明: MONITOR コマンドの実行に失敗した場合に，次のメッセージが表示されます。

SYSTEM-F-EXQUOTA, exceeded quota

この場合は BYTLM クオータが足りません。
ユーザの対応: BYTLM クオータと SYSGEN MAXBUF パラメータを最低 1024 にしてください。

SESACT, session now active, *primary* LU *PLU-name*, output stream *spec*
<セッションが開始されました。 1 次 LU は*PLU-name*, 出力ストリームは*spec*です。>
説明: セッションが開始されました。メッセージは 1 次 LU 名および出力ストリーム名を表示しています。
ユーザの対応: なし。

SESINUSE, session address is already in use
説明: 既に他のユーザが，このセッション・アドレスを使用しています。
ユーザの対応: 他のセッション・アドレスを使用してください。

SESINUNAC, session address already in use or not activated
説明: アクセス名で指定されているセッション・アドレスが，既に使用されているか，活性化されていません。
ユーザの対応: IBM VTAM オペレータに，LU を活性化するよう依頼します。または空き LU が出来るのを待ってください。

SESNOTAVA, session address has not been activated
説明: LU が活性化されていません。
ユーザの対応: IBM VTAM オペレータに，LU を活性化するよう依頼します。

SESNOLACT, session no longer active
<セッションは活性化されていません。>
説明: セッションは終了しました。
ユーザの対応: なし。セッション中にエラーが発生した場合は異常がないかどうか，イベント・ログ・ファイルを確認してください。

SLU, session address must be specified
<セッション・アドレスが指定されなければなりません。>
説明: キャラクタリスティックス・ファイル作成時にセッション・アドレスを指定していません。
ユーザの対応: SET CHARACTERISTICS コマンドに，/SESSION_ADDRESS 修飾子でセッション・アドレスを指定してください。

SPOOL, unable to queue output file for printing
<印刷のための出力ファイルをキューに登録できません。>
説明: 後に続くメッセージで詳しい情報を表示します。
ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

SPOOLMBX, error in assigning mailbox
<OpenVMS のメール・ボックスを確保できませんでした。>
説明: OpenVMS メール・ボックスを確保できませんでした。
ユーザの対応: 後に続くメッセージに依存します。

STOPEOS, connection stopping at end of next session for *characteristics-name*
<キャラクタリスティックス名*characteristics-name*の現在のセッションが終了したとき接続が終了します。>
説明: STOP コマンドを入力時に表示されます。
ユーザの対応: なし。

STOPPING, connection is stopping for characteristics name *name*
<キャラクタリスティックス名*name*の接続が終了しました。>
説明: STOP/IMMEDIATE コマンド入力時に表示されます。
ユーザの対応: なし。

TRANBAD, file does not contain valid character-set
<1 バイト変換テーブルが不適切です。>
説明: 1 バイト変換テーブルが不適切です。これは，次のエラー・メッセージの第 2 メッセージです。
ユーザの対応: TRANERR メッセージの説明を調べてください。

TRANERR, error in accessing character-set
<1 バイト変換テーブルをアクセスする際，エラーが発生しました。>
説明: 指定された 1 バイト変換テーブルが使用できません。
ユーザの対応: 正しい変換テーブルを指定してください。

TWOMON, this connection is being monitored by another user
<この接続は他のユーザによってモニターされています。>
説明: 指定した接続を，すでに他のユーザがモニタリングしています。 1 つの接続に対して，同時に複数のユーザのモニタリングはできません。
ユーザの対応: 他のユーザのモニタリングが終了するまで待ってください。

UNABINIMA, unacceptable BIND image, byte *numbers*
<バイト*numbers*の受け入れられない BIND イメージ>
説明: IBM システムからの BIND パラメータが不適当です。
ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者または IBM のシステム・プログラマに連絡してください。

UNARANGE, needed a value in range *hex-number* to *hex-number*, received *hex-number*
<この値は*hex-number*から*hex-number*の範囲である必要がありますが，受信したのは*hex-number*でした。>
説明: これは次のエラー・メッセージの第 2 メッセージです。

UNABINIMA, unacceptable BIND *image*, bit/byte *numbers*
ユーザの対応: UNABINIMA メッセージの説明を調べてください。

UNAVALUE, expected *hex-number*, received *number*
<期待値は*hex-number*ですが，受信したのは*number*でした。>
説明: これは次のエラー・メッセージの第 2 メッセージです。

UNABINIMA, unacceptable BIND image, bit/byte *numbers*
ユーザの対応: UNABINIMA メッセージの説明を調べてください。

UNBINDREC, UNBIND received from IBM application
説明: IBM アプリケーションから UNBIND 指令を受信しました。
ユーザの対応: なし

UNKCOM, command is not an JSNAPRE command *xxx*
<*xxx*コマンドは JSNAPRE ユーティリティのコマンドではありません。>
説明: これは JSNAPRE ユーティリティのコマンドではありません。
ユーザの対応: JSNAPRE ユーティリティのコマンドを入力してください。

UNKENT, invalid or unknown entity in prompt *entity*
<*entity*プロンプトに対する入力が不適切です。>
説明: プロンプトに対する入力が不適切です。
ユーザの対応: 正しく入力してください。

UNKEOL, line ended unexpectedly - a mandatory item was not present

<コマンド入力ラインが突然に終了しています - 入力必須項目がありませんでした。>

説明: 正しい形式でコマンドを入力していません。

ユーザの対応: 正しい形式で入力してください。正しい形式で，ファイル指定，コマンド，修飾子およびキャラクタリスティックス名を入力しているか確認してください。

UNKLUT, unsupported LU type *hex-number*

<LU タイプ*hex-number*をサポートしていません。>

説明: 日本語 PrE はこの LU タイプをサポートしていません。 LU タイプは 2 桁の 16 進数です。

ユーザの対応: IBM システム・プログラマに連絡してください。誤ったセッション・アドレスを使用している可能性があります。

UNKPARAM, parameter is not valid for this qualifier or command *parameter*

<*parameter*パラメータはこの修飾子またはコマンドに対して有効ではありません。>

説明: 入力パラメータが不適当です。

ユーザの対応: キャラクタリスティックス名だけを指定してコマンドを入力してください。

UNKQUAL, qualifier is not valid for this command *qualifierparameter*

<*qualifierparameter*修飾子はこのコマンドに対して有効ではありません。>

説明: 修飾子が不適当です。

ユーザの対応: 正しい修飾子を入力してください。

UNKRSPREC, response received to a request that wasn't sent

<送信していない要求に対する応答を受け取りました。>

説明: プロトコル・エラーです。

ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者，または， IBM システムのシステム・プログラマに連絡してください。

UNKUNIT, DECnet unit number *number* is unknown
<DECnet のユニット番号*number*がわかりません。>
説明: DECnet のユニット番号が不適当です。
ユーザの対応: ゲートウェイのシステム管理者に連絡してください。

UNUUNBREC, UNBIND of type *unbind-type* received from IBM application
説明: IBM システムがこのタイプの UNBIND コマンドを送信しました。
ユーザの対応: コマンドの意味を調べて，適切な処置をしてください。

UPDCHAR, updating existing characteristics file *file-spec*
<既存のキャラクタリスティックス・ファイル*file-spec*を更新します。>
説明: このメッセージは，SET CHARACTERISTICS コマンドで既存のキャラクタリスティックス・ファイルを変更したときに表示されます。
ユーザの対応: なし。

B.2.1 重大な内部メッセージ

次のエラー・メッセージは，日本語 PrE 内で重大なエラーが発生した場合に表示されます。

重要

次のメッセージは日本語 PrE が正常に動作していないと表示されます。エラーを再現させて，端末に表示されるメッセージを書き写したり，イベント・ログ・ファイルの内容を出力して，システム管理者に報告してください。

ABOCTXPRE, abort context block present at port deletion time

ABOWAIACC, abort attempt while still waiting for IO$ACCESS

ACCINTERR, Gateway detected an error in the Gateway Access Routines

AEFOUTRAN, asynchronous event flag number is out of range

ASTBLKZER, ASTBLK to SNA$$IOEVENT is 0

BINDATREC, BIND data received in wrong state

BUFIN_USE, *number* bytes of buffer still in use

BUFTOOSHO, transmit buffer is too short

CORTABCOR, *number* entries still in the correlation table

CTXBLKINU, no active ports, but context blocks still in use

DCLASTFAI, $DCLAST failed

EVFOUTRAN, event flag number is out of range

EVTIN_USE, *number* event blocks still in use

EXIT, gateway server task terminated

FAIALLBUF, failed to allocate memory for a buffer

FAIALLEVF, failed to allocate an event flag

FAIASSCHA, failed to assign a DECnet channel

FAIALLCTX, failed to allocate memory for a context block

FAIBLDNCB, failed to build DECnet Network Connect Block

FAICONMBX, failed to convert mailbox name

FAICOPBIN, failed to copy BIND image into caller's buffer

FAICOPBUF, failed to copy data into caller's buffer

FAICOPMBX, failed to copy mailbox message to context block

FAIDEAMBX, failed to deassign mailbox channel

FAIFREBUF, failed to free data buffer

FAIFREEF, LIB$FREEEF failed

FAIFRENCB, failed to free NCB buffer

FAIGETCHA, failed to get mailbox characteristics

FAIGETMBX, failed to get context block for mailbox message

FAITRIBLA, failed to trim blanks off end of nodename

FATINTERR, internal error in Gateway access routines

FLUBUFREC, Flush Buf message received while not flushing

FUNCABORT, access routine function aborted

FUNNOTVAL, function not valid with port in current state

GATINTERR, internal error in Gateway node, code *number*, subcode *number*

GATTRAFAI, Gateway logical name translation failed

GETDVIFAI, failed to get NET device characteristics

ILLASTSTA, ASTs are disabled or an AST routine is currently in progress

ILLMBXMSG, illegal or unexpected mailbox message type

INSRESOUR, insufficient resources to establish session

INVACCPAR, parameter ACCNAME is invalid

INVAEFPAR, parameter ASYNC-EFN is invalid

INVAPPPAR, parameter APPLIC is invalid

INVARGLEN, invalid argument block length in SNA$$DOWAIT

INVASTADR, parameter ASTADR is invalid

INVASTPAR, parameter ASTPAR is invalid

INVASYEVT, invalid asynchronous event occurred, code code

INVBINBUF, parameter BINDBUF is invalid

INVBINLEN, parameter BINDLEN is invalid

INVBUFPAR, parameter BUFFER is invalid

INVCIRPAR, parameter CIRCUIT is invalid

INVDATPAR, parameter DATA is invalid

INVEVFNUM, parameter EFN is invalid

INVEVTCOD, parameter EVTCODE is invalid

INVEVTNUM, event number *number* is an invalid event number

INVGWYNOD, parameter GWY-NODE is invalid

INVIOSB, parameter IOSB is invalid

INVLENADR, parameter DATALEN is invalid

INVLMTPAR, parameter LOGON is invalid

INVNOTADR, parameter NOTIFY is invalid

INVNOTPAR, parameter NOTIFYPAR is invalid

INVPASPAR, parameter PASSWORD is invalid

INVPORTID, parameter PORTID is invalid

INVRECCHK, invalid port state for receive check

INVRECCOU, parameter NUMREC is invalid

INVRHPAR, parameter RHPAR is invalid

INVSENCOD, parameter SENSE is invalid

INVSEQNUM, parameter SEQNUM is invalid

INVSESPAR, parameter SESADDR is invalid

INVSNDDAT, failed to send data to IBM

INVTRAFLG, parameter TRAFLG is invalid

INVUSEPAR, parameter USER is invalid

LENTOOLON, transmit byte count exceeds buffer length

LIBFREFAI, LIB$FREE-VM failed

LIBGETFAI, LIB$GET-VM failed

LIBROUFAI, system library routine failed

MAXSESACT, maximum number of sessions already active

MBXIOSERR, mailbox read failed with an IOSB error

MBXREAFAI, mailbox read returned an error

NO_GWYNOD, SNA$DEFGATEWAY in undefined and GWY-NODE was not specified

NOEVEPEN, no event pending

NOTNORDAT, non-normal data message received from Gateway

OBJTRAFAI, failed to translate object name logical

PORREFNON, port database reference count is not zero

PORREFOUT, port database reference count is out of range

PORUNKSTA, port is in an unknown state

PROERRBIN, protocol error in BIND data message from Gateway

RECBUFINU, no active ports, but receive buffers still in use

RECFREFAI, failed to free receive buffer

RECPENMSG, RECONPEND message received, state not RUNNING

RECTOOLAR, receive count is too large

SCRINIERR, $SCRINIT returned an unknown status code

SERV, system services error

STANOTRUN, normal message received, state not RUNNING

TERMPEND, SNA$TERMINATE has already been issued

TOOFEWPAR, not enough parameters specified

TOOMANPAR, too many parameters specified

UNINUMUNK, unit number in mailbox message is unknown

UNKDATMSG, unknown data message type received

UNKEVTNUM, event number *number* is unknown

UNKMBXMSG, unrecognized mailbox message, message

UNKMSGREC, unknown message code received from Gateway

UNKPMRMSG, unknown message received from PSTHRU

UNKSLU, unknown AI port id *hex-number*

UNKSNSCOD, unrecognized sense code *hex-number*

UNKUNBREC, unknown UNBIND type received from Gateway

UNSUSEREC, unsatisfied user receives at port deletion time

C

1 バイト変換テーブル

ここでは，日本語 PrE が内部で持っている 1 バイト変換テーブルについて説明します。このテーブルは，/CHARACTER_SET 修飾子で明示的に変換テーブル名を指定しない場合に使用される省略値の変換テーブルです。/KANA 修飾子が指定された場合 (省略値) のテーブルと，/NOKANA 修飾子が指定された場合のテーブルの 2 種類の変換テーブルがあります。

C.1 /KANA 修飾子が指定された場合

/KANA 修飾子を使用した場合には，日本語 PrE は図 C–1 で示す変換テーブル（EBCDIC ⇒ JIS，カナ文字用）を省略値として使用します。これは，IBM システムで英数カナ文字セットが使用されている場合に使用します。この場合，変換された文字が半角カナの場合には，IBM システムからの半角カナの各文字の前に SS2(シングル・シフト 2) のエスケープ・シーケンスが挿入されます。ロッキング・シフトで半角カナを出力させたい場合は，エグゼクティブ・モードでシステム論理名 JSNAPRE$KANA に "LS"を定義します。

注意 1

印刷文字として未定義の文字コードは，"—"（2D）で印刷されます。

注意 2

対応する文字がないもの (非互換な文字) については，次のように変換します。

EBCDIC	JIS
£ (4A)	[(5B)
¬ (5F)	^ (5E)

図 C–1　/KANA 修飾子が指定された場合の変換テーブル (EBCDIC ⇒ JIS，カナ文字用)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0					20 SP	26 &	2D −			BF ソ					24 $	30 0
1					A1 。	AA エ	2F ／		B1 ア	C0 タ	7E ~		41 A	4A J		31 1
2					A2 「	AB オ			B2 イ	C1 チ	CD ヘ		42 B	4B K	53 S	32 2
3					A3 」	AC ヤ			B3 ウ	C2 ツ	CE ホ		43 C	4C L	54 T	33 3
4					A4 、	AD ユ			B4 エ	C3 テ	CF マ		44 D	4D M	55 U	34 4
5					A5 ・	AE ヨ			B5 オ	C4 ト	D0 ミ		45 E	4E N	56 V	35 5
6					A6 ヲ	AF ッ			B6 カ	C5 ナ	D1 ム		46 F	4F O	57 W	36 6
7					A7 ァ				B7 キ	C6 ニ	D2 メ		47 G	50 P	58 X	37 7
8					A8 ィ	B0 ー			B8 ク	C7 ヌ	D3 モ		48 H	51 Q	59 Y	38 8
9					A9 ゥ			`	B9 ケ	C8 ネ	D4 ヤ		49 I	52 R	5A Z	39 9
A					5B [	21 !		3A :	BA コ	C9 ノ	D5 ユ	DA レ				
B					2E .	5C ¥	2C ,	23 #				DB ロ				
C					3C <	2A *	25 %	40 @	BB サ		D6 ヨ	DC ワ				
D					28 (	29)	5F _	27 '	BC シ	CA ハ	D7 ラ	DD ン				
E					2B +	3B ;	3E >	3D =	BD ス	CB ヒ	D8 リ	DE ゛				
F					7C |	5E ^	3F ?	22 "	BE セ	CC フ	D9 ル	DF ゜				

C.2 /NOKANA 修飾子が指定された場合

/NOKANA 修飾子を使用した場合には，日本語 PrE は図 C–2 で示す変換テーブル（EBCDIC ⇒ ASCII，英小文字用）を省略値として使用します。これは，IBM システムで英数小文字セットが使用されている場合に使用します。

注意 1

印刷文字として未定義の文字コードは，"—"（2D）で印刷されます。

注意 2

対応する文字がないもの (非互換な文字) については，次のように変換します。

EBCDIC	ASCII
¦ (6A)	| (7C)
ø (4A)	[(5B)
¬ (5F)	^ (5E)

図 C–2 /NOKANA 修飾子が指定された場合の変換テーブル (EBCDIC ⇒ ASCII，英小文字用)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0					20 SP	26 &	2D —						7B {	7D }	5C \	30 0
1							2F /		61 a	6A j	7E ~		41 A	4A J		31 1
2									62 b	6B k	73 s		42 B	4B K	53 S	32 2
3									63 c	6C l	74 t		43 C	4C L	54 T	33 3
4									64 d	6D m	75 u		44 D	4D M	55 U	34 4
5									65 e	6E n	76 v		45 E	4E N	56 V	35 5
6									66 f	6F o	77 w		46 F	4F O	57 W	36 6
7									67 g	70 p	78 x		47 G	50 P	58 X	37 7
8									68 h	71 q	79 y		48 H	51 Q	59 Y	38 8
9								60 `	69 i	72 r	7A z		49 I	52 R	5A Z	39 9
A					5B [	21 !	7C |	3A :							
B					2E .	24 $	2C ,	23 #								
C					3C <	2A *	25 %	40 @								
D					28 (	29)	5F _	27 '								
E					2B +	3B ;	3E >	3D =								
F					7C |	5E ^	3F ?	22 "								

D

jsnaknjdef ユーティリティ

jsnaknjdef ユーティリティは、 OpenVMS ユーザが IBM 付加文字および IBM ユーザ定義文字と DEC 拡張漢字セットのユーザ定義領域の文字との対応を設定、管理するためのソフトウェアです。このプログラムは、 jsnaknjdef コマンドにより起動されます。

D.1 起動方法

次のような OpenVMS のオペレーションにより起動されます。

1. フォーリン・コマンドの定義

```
$ jsnaknjdef :== $jsnaknjdef
```

2. jsnaknjdef コマンドの起動

```
$ jsnaknjdef
```

3. jsnaknjdef コマンドのプロンプト

```
jsnaknjdef>
```

D.2 jsnaknjdef コマンド形式

jsnaknjdef コマンドの形式は次のとおりです。

jsnaknjdef	
(形式)	jsnaknjdef
(コマンド・パラメータ)	外字管理ファイル名 (省略可)
(コマンド・オプション)	なし

D.3 jsnaknjdef ユーティリティ内のコマンド形式

jsnaknjdef>プロンプトに対し、ユーザは次のコマンドを入力することができます。

- use
- list
- define
- undefine
- help
- exit
- quit

以下にこれらのコマンド形式について説明します。

D.3.1 use コマンド

use コマンドの形式は次のとおりです。

use

use コマンドにより指定されたファイルに、外字管理情報を出力します。

(形式)

use　　外字管理ファイル名

(コマンド・パラメータ)	(省略値)
外字管理ファイル名	なし

既存のファイルがあればそのファイルを使用対象とし、なければ新しい外字管理ファイルを作成します。外字管理ファイルは、 IBM 付加文字および IBM ユーザ定義文字が、 DEC 拡張漢字セットのどの部分と対応付けるかの情報を保存するファイルです。

注意

use コマンドにより選択された外字管理ファイルは、 jsnaknjdef ユーティリティ内で次に use コマンドを使用するまで、 define, list, undefine コマンドの対象ファイルとなります。

D.3.2 list コマンド

list コマンドの形式は次のとおりです。

---

list

use コマンドにより指定された外字管理ファイルの内容を output で指定したファイルに出力します。

(形式)

list

(コマンド・オプション)	(省略値)
output ファイル名	標準出力

(コマンド・オプション)

output ファイル名

このオプションが省略された場合は標準出力に出力します。

図 D–1　list 表示例– 1

```
jsnaknjdef> use extern.tbl
jsnaknjdef> list

                  List of the DEC-IBM extended Kanji
    File: extern.tbl

    DEC Extended Kanji  IBM Kanji        DEC Extended Kanji  IBM Kanji

            1           External                17          User 6D
            2           External                18          User 6D
            3           External                19          User 6E
            4           External                20          User 6E
            5           External                21          User 6F
            6           External                22          User 6F
            7           User 69                 23          User 70
            8           User 69                 24          User 70
            9           Undefined               25          User 71
           10           Undefined               26          User 71
           11           User 6A                 27          User 72
           12           User 6A                 28          User 72
           13           User 6B                 29          Undefined
           14           User 6B                 30          Undefined
           15           User 6C                 31          Undefined
           16           User 6C                         (END of list)

    Note : DEC Ku No. is decimal. IBM Ku No. is Hexa-decimal.
```

表中の "External"は IBM 付加文字を表し、 "User xx"は IBM ユーザ定義文字領域の第 xx 区を表しています。

D.3.3 define コマンド

define コマンドの形式は次のとおりです。

---

define

use コマンドにより指定された外字管理ファイルに、対応情報を書き込みます。
既存の外字管理ファイルが対象となっていた場合は、その内容を更新します。

(形式)

define

(コマンド・オプション)	(省略値)
external	なし
user IBM ユーザ定義文字領域区番号	なし
to DEC 拡張漢字セット区番号	なし

(制限)　このコマンドを実行するには OPER 特権が必要です。

(コマンド・オプション)

external

IBM 付加文字 (338 文字) について定義する場合に指定します。 external と user とは同時には指定できません。

user IBM ユーザ定義文字領域区番号

IBM ユーザ定義文字領域の文字について定義する場合に指定します。指定する IBM ユーザ定義文字領域の区番号は、 69 ~ 7F までを 16 進数で指定します。 external と user とは同時には指定できません。

注意

DEC 拡張文字セットの区の、最初と最後の文字位置に割り当てられる位置にある IBM ユーザ自由領域の文字は使用できません。

to

- external が指定されている場合

  1 ~ 26 までの区番号を 10 進数で指定します。指定された区番号から連続 6 区間に、 IBM 付加文字が対応付けられます。例えば to 21 を指定すると、 DEC 漢字セットの 21 ~ 26 区に IBM 付加文字が対応付けられます。

- user が指定されている場合

  1 ~ 29 までの区番号を 10 進数で指定します。指定された区番号から連続 2 区間に、指定された IBM ユーザ定義文字領域の文字が対応付けられます。例えば user 69 to 1 を指定すると、 IBM 漢字セットの 69 区が DEC 拡張漢字セットの 1, 2 区に対応付けられます。

define コマンド使用例を示します。

- 新規にファイルを作成する場合

```
# jsnaknjdef
jsnaknjdef> use mytbl.tbl
jsnaknjdef> define  external  to 21
jsnaknjdef> define  user 69  to 1
jsnaknjdef> define  user 6A  to 3
jsnaknjdef> define  user 6B  to 5
jsnaknjdef> define  user 6C  to 7
jsnaknjdef> exit
```

上記のコマンドにより新規に作成された mytbl.tbl の中には、次のような指定がされることになります。

IBM 漢字	DEC 漢字
IBM 付加文字	DEC 拡張漢字セットの第 21 区 ~ 第 26 区
IBM ユーザ定義文字の第 69 区	DEC 拡張漢字セットの第 1 区 ~ 第 2 区
IBM ユーザ定義文字の第 6A 区	DEC 拡張漢字セットの第 3 区 ~ 第 4 区
IBM ユーザ定義文字の第 6B 区	DEC 拡張漢字セットの第 5 区 ~ 第 6 区
IBM ユーザ定義文字の第 6C 区	DEC 拡張漢字セットの第 7 区 ~ 第 8 区

- 外字管理ファイルを更新する場合

```
# jsnaknjdef
jsnaknjdef> use mytbl.tbl
jsnaknjdef> define use 69 to 9
jsnaknjdef> exit
```

上記のコマンドにより既存の mytbl.tbl は、次のように更新されることになります。

IBM 漢字	DEC 漢字
IBM 付加文字	DEC 拡張漢字セットの第 21 区 ~ 第 26 区
IBM ユーザ定義文字の第 69 区	DEC 拡張漢字セットの第 9 区 ~ 第 10 区
IBM ユーザ定義文字の第 6A 区	DEC 拡張漢字セットの第 3 区 ~ 第 4 区
IBM ユーザ定義文字の第 6B 区	DEC 拡張漢字セットの第 5 区 ~ 第 6 区
IBM ユーザ定義文字の第 6C 区	DEC 拡張漢字セットの第 7 区 ~ 第 8 区

D.3.4 undefine コマンド

undefine コマンドの形式は次のとおりです。

---

undefine

use コマンドにより指定された外字管理ファイルの対応情報をクリアします。

(形式)

undefine

(コマンド・オプション)	(省略値)
group DEC 拡張漢字セット区番号	なし
char DEC 拡張漢字セット文字コード	なし
all	なし

(制限) このコマンドを実行するには OPER 特権が必要です。
group と char を同時には指定できません。

(コマンド・オプション)

group DEC 拡張漢字セット区番号

区対応で定義されている DEC 拡張漢字セットのユーザ定義文字をクリアする場合に使用します。指定するオプションは、 DEC 拡張漢字セットの区番号を 1 ~ 31 までの 10 進で指定します。

char DEC 拡張漢字セット文字コード

文字対応で定義されている DEC 拡張漢字セットのユーザ定義文字をクリアする場合に使用します。指定するオプションは、 DEC 拡張漢字セットの文字コードを A121 ~ BF7E までの 16 進で指定します。

all

現在定義されているすべての区域を未定義にします。新たに編集し直したい場合に使用します。

注意

区対応で定義されている DEC 拡張漢字のある区内のコードを、 char でクリアすることは出来ません。また、ある DEC 拡張漢字が文字対応で定義されている場合、その文字を含んでいる区を group でクリアすることも出来ません。 group , char , all を同時に指定した場合は , 最後に指定したものが有効になります。

D.3.5 help コマンド

help コマンドの形式は次のとおりです。

help
(形式) help

D.3.6 exit コマンド

exit コマンドの形式は次のとおりです。

exit
(形式) exit

D.3.7 quit コマンド

quitコマンドにより jsnaknjdef ユーティリティを終了します。

quit コマンドの形式は次のとおりです。

exit
(形式) quit

E

日本語 PrE のトラブル・シューティング

ここでは，日本語 PrE を使用するときに発生する可能性ある問題の解決方法について説明します。

トラブル番号	現象
1	ゲートウェイが BIND 要求を拒絶する。
2	IBM システムからのデータを受信していない。
3	データを受信したが，形式が異なる。
4	JSNAPREDET バックグラウンド・プロセスを作成できない，または JSNAPRE ユーティリティを起動できない。
5	START コマンドが失敗する。

トラブル 1

ゲートウェイが BIND 要求を拒絶する。

解決法：

ゲートウェイが BIND 要求を拒絶した場合には，イベント・ログ・ファイルにエラー・メッセージを書き込んでいます。エラー・メッセージは，BIND 要求のどのフィールド (たとえば RUSIZE，LU タイプなど) に問題が起きているかを示しています。

IBM システムの ACF/VTAM ログオンモード・テーブルを確認してください。

トラブル 2

IBM システムからのデータを受信していない。

解決法：

イベント・ログ・ファイルの内容を確認して，次の処置を行ってください。

1. 接続が開始されているか確認してください。接続の開始方法については，第 1.3 節を参照してください。
2. IBM システムとゲートウェイの間，あるいはゲートウェイと日本語 PrE との間でネットワーク障害が発生していないか確認してください。発生している場合には，ゲートウェイのマニュアルを参照して問題を解決してください。
3. IBM システムがセッションを開始しているかどうかを確認してください。開始されているのであれば，ゲートウェイの SNATRACE ユーティリティか，ゲートウェイ・システムを使用して問題を解決してください。 SNATRACE ユーティリティについてはインターコネクト・システムのマネジメント・ガイドを参照してください。

トラブル 3

データを受信したが，形式が異なる。

次のような現象が考えられます。

- 1 行に書かれる内容が，途中から 2 行に書かれている。
- 1 ページに書かれる内容が，途中から 2 ページ目に書かれている。
- 出力ファイルの 1 ページが印刷用紙の 1 ページにおさまりきらない。

解決法：

IBM システム上での設定 (1 行の長さ， 1 ページの大きさ) と接続に対するキャラクタリスティックスの設定 (/WIDTH,/LENGTH) が同じかどうか確認してください。用紙が正しくプリンターにセットされているかどうかも確認してください。

キャラクタリスティックスにフォームを指定している場合 (/FORM) は，指定されたフォーム・タイプの属性を，指定していない場合 (/NOFORM) は，プリント・キューの省略フォーム・タイプの属性を確認してください。

トラブル 4

JSNAPREDET バックグラウンド・プロセスを作成できない，または JSNAPRE ユーティリティを起動できない。

解決法：

日本語 PrE が正しくインストールされているかどうかを確認してください。また，JSNAPREDET プロセスを作成するにはいくつかの特権が必要です。 SYSTEM アカウント，またはそれと同等な特権をもっているかどうかを確認してください。

トラブル 5

START コマンドが失敗する。

解決法：

ゲートウェイ・システムを接続する際にエラーが発生しました。イベント・ログ・ファイルの内容を確認してください。付録 B を参考にして，トラブルの内容を解析してください。特権に関するエラー・メッセージであれば，他のユーザが既にその接続を開始しています。

F

DEC 拡張漢字セット内の IBM 付加文字

jsnaknjdef ユーティリティで define/external コマンドを発行した際に IBM 付加文字が，どのように DEC 拡張漢字セットに割り当てられているかを以下に表で示します。

ＤＥＣ拡張漢字セット

(第 N 区)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
XX2		41B1	41B2	41B3	41B4	41B5	41B6	41B7	41B8	41B9	41BA	41F1	41F2	41F3	41F4	41F5
XX3	41F6	41F7	41F8	41F9	41FA	425F	426A	427D	427F	446D	446E	446F	4478	51BF	51DA	51F7
XX4	524B	527B	5294	529E	52EB	5386	5394	5397	53C7	5644	565D	5662	5665	5666	566A	566E
XX5	5670	5671	5674	567B	5686	568A	5691	5694	5698	56A2	56A3	56A4	56A8	56B2	56B5	56C9
XX6	56CE	56DC	56E8	56EF	56F7	574F	5750	5756	5758	5761	5763	576B	577C	5780	5787	578B
XX7	578E	57A9	57AE	57BD	57C0	57DE	5860	5863	586C	5870	5873	5877	5882	588A	588C	

(第 N+1 区)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
XX2		58A1	58AD	58B0	58B1	58B2	58BE	58C0	58EC	58FC	58FE	5942	5944	5951	5967	5968
XX3	5970	5978	597F	5980	5984	5987	5993	5995	5997	59C7	59CB	59D8	59E8	59F1	5A44	5A51
XX4	5A57	5A5F	5A65	5A67	5A68	5A76	5A79	5A7E	5A94	5AB5	5ADA	5AFB	5B50	5B53	5B54	5B7E
XX5	5B97	5B98	5B99	5B9D	5BA0	5BA1	5BA4	5BA7	5BA8	5BAB	5BAE	5BAF	5BB4	5BB6	5BB8	5BBB
XX6	5BC7	5BC8	5BC9	5BD8	5BE3	5BEC	5BF0	5BF3	5BF9	5C5F	5C66	5C6E	5C78	5C79	5C90	5C9A
XX7	5C9B	5CA6	5CA9	5CAF	5CB9	5CBC	5CEA	5CF6	5CF9	5CFD	5CFE	5D4E	5D58	5D60	5D62	

(第 N+2 区)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
XX2		5D6B	5D72	5D74	5D7A	5D7F	5D80	5D8A	5D8E	5D93	5D95	5DA6	5DC1	5DCA	5DD5	5DD7
XX3	5DD8	5DE3	5DEA	5DED	5DF5	5DF6	5DFB	5DFC	5DFD	5E49	5E4B	5E5A	5E73	5E75	5E86	5E8A
XX4	5E94	5E99	5E9E	5E9F	5EA1	5EA2	5EA7	5EA8	5EAA	5EAB	5EAD	5EAE	5EBC	5EBD	5EC0	5ED1
XX5	5EE7	5F69	5F70	5F71	5F72	5F73	5F7A	5F8E	5FAA	5FAE	5FB2	5FB3	5FB6	5FD1	5FD2	5FD5

XX6	5FD9	5FDC	5FDD	5FDF	604F	6058	6059	605A	6082	60AD	60C4	60C6	60D4	60DA	60E1	60FD
XX7	6157	616E	6177	61F8	6248	625B	6267	6274	627E	628A	629E	62A1	62A8	62B9	62BB	

(第 N+3 区)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
XX2		62CE	62E2	635E	6390	63C5	63CB	63D4	63DF	63E1	63ED	63EE	63EF	6445	6450	647C
XX3	647D	6485	648D	648E	64C9	6AF1	6549	6553	6564	6566	6567	656B	6583	6585	6586	658A
XX4	658C	658D	658F	6590	6593	6595	659B	659E	659F	65A1	65A3	65A5	65A6	65A8	65AB	65AC
XX5	65AD	65B4	65B5	65B6	65B7	65B8	65B9	65BC	65BD	65C1	65C3	65C5	65C6	65C8	65C9	65CC
XX6	65CE	65D0	65D5	65D8	65DD	65E4	65E8	65F0	65F4	65F6	664A	6674	6678	6679	667F	6697
XX7	6699	669E	66A2	66A3	66A4	66A5	66CB	66CC	66DD	66DF	66E5	66E6	66F9	6759	676B	

(第 N+4 区)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
XX2		676C	678F	6791	6793	679B	679F	67B1	67E2	67E4	67F4	67FE	6856			
XX3																
XX4																
XX5																
XX6																
XX7																

注意

第 N+5 区には，該当する IBM 付加文字は割り当てられませんが，将来のための保留領域として扱われます。

索引

A

/ACCESS_NAME 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–4
  START コマンド 1–12, A–11
/ALL 修飾子
  SHOW CHARACTERISTICS コマンド . . A–9
  SHOW STATUS コマンド A–14
  STOP コマンド A–12
all オプション
  undefine コマンド D–8

B

BIND 1–3
BYPASS 特権 1–10

C

CANCEL コマンド 1–21
/CASE 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–4
  START コマンド 1–13
/CHARACTER_SET 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–4
  START コマンド 1–13
char オプション
  undefine コマンド D–8
/CIRCUIT 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–5
  START コマンド 1–13, A–11
/COPIES 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–5
  START コマンド 1–13
  SWITCH コマンド 1–19
Ctrl/Z 1–11

D

DEC 拡張漢字セット F–1
DEC 拡張文字 D–1
DEC ユーザ定義領域 D–1
define コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ D–5
  使用例 D–7
/DELETE 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド . . . 1–13, A–5

E

EBCDIC コード A–4
exit コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ D–9
EXIT コマンド 1–11
/EXTERNAL 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–5
external オプション
  define コマンド D–5

F

/FORM 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–5
  START コマンド 1–14
  SWITCH コマンド 1–20
/FULL 修飾子
  SHOW STATUS コマンド A–14

G

/GATEWAY 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–5
  START コマンド 1–14, A–12
group オプション
  undefine コマンド D–8

H

help コマンド
  jsnaknjdef ユーティリティ D–9
HELP コマンド 1–7

I

IBM3270 端末 1–5
IBM3274 制御装置 1–1, 1–5
IBM 3270 情報表示システム 1–5
IBM3283 型印刷装置 1–1
  CANCEL PRINT キー 1–21
IBM 付加文字 D–1, F–1
IBM ユーザ定義文字 D–1
/IMAGE 修飾子
  SET CHARACTERISTICS コマンド A–6
  START コマンド 1–14
/IMMEDIATE 修飾子
  STOP コマンド 1–17, A–12

J

jsnaknjdef ユーティリティ 1–14, A–5, D–1
define コマンド D–5
exit コマンド D–9
help コマンド D–9
list コマンド D–3
quit コマンド D–9
undefine コマンド D–8
use コマンド D–2
終了 D–9
起動 D–1
jsnaknjdef ユーティリティ内のコマンド
jsnaknjdef ユーティリティ D–2
JSNAPRE コマンド・ユーティリティ 1–2
JSNAPRE ユーティリティ・コマンド
CANCEL 1–21
MONITOR 1–23
PA1 1–18
PA2 1–18
REMOVE A–10
SET CHARACTERISTICS A–2
SHOW STATUS 1–27, A–13
SHOW LOG_FILE 1–25
SHOW CHARACTERISTICS 1–26, A–8
START 1–12, 1–16, A–11
STOP 1–17, A–12
SWITCH 1–19
USE 1–22
コメント 1–7
最大入力 1–7
リコール 1–7
リトライ 1–16
JSNAPRE ユーティリティの終了 1–11
JSNAPRE ユーティリティの起動 1–6

K

/KANA 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–6
/KEISEN 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド . . . 1–15, A–6

L

/LENGTH 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–6
START コマンド 1–15
list コマンド
jsnaknjdef ユーティリティ D–3
LOCADDR オペランド A–7
/LOG_FILE 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–6
/LUPASSWORD 修飾子
START コマンド 1–15
LU アドレス A–7
LU タイプ 1
PA1 コマンド 1–18
PA2 コマンド 1–18

M

MONITOR コマンド 1–23

N

NETMBX 特権 1–10
/NOCHARACTER_SET 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–4
START コマンド 1–13
/NOCIRCUIT 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–5
START コマンド A–11
/NODELETE 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–5
/NOFORM 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–5
/NOIMAGE 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–6
START コマンド 1–14
/NOKANA 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–6
/NOKEISEN 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド . . . 1–15, A–6
/NOQUEUE 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
START コマンド 1–15
SWITCH コマンド 1–20
/NOUSER 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
/NOWAIT 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
START コマンド 1–16

O

OPER 特権 1–10, A–1
/OUTPUT_STREAM 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–6
START コマンド 1–15
SWITCH コマンド 1–20
output オプション
list コマンド D–3

P

PA1 コマンド 1–18
PA2 コマンド 1–18

Q

/QUEUE 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
START コマンド 1–15
SWITCH コマンド 1–20
quit コマンド
jsnaknjdef ユーティリティ D–9

R

REMOVE コマンド A–10

S

/SESSION_ADDRESS 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
SET CHARACTERISTICS コマンド
修飾子と省略値 . . . . . A–2 ~ A–4
キャラクタリスティックスの変更 A–8
例 A–8
キャラクタリスティックスの定義 1–8, A–2
使用例 A–8
SHOW STATUS コマンド 1–27, A–13
使用例 A–14
SHOW LOG_FILE コマンド 1–25
使用例 1–26
SHOW CHARACTERISTICS コマンド . . . 1–26, A–9
使用例 1–26, A–10
/SPACING 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
START コマンド 1–15
START コマンド 1–12, 1–16, A–11
使用例 A–12
使用例 1–16
STOP コマンド 1–17, A–12
使用例 A–13
使用例 1–17
SWITCH コマンド 1–19

T

TMPMBX 特権 1–10
to オプション
define コマンド D–6

U

UIC 1–10
UNBIND 1–3
undefine コマンド
jsnaknjdef ユーティリティ D–8
/USER 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
START コマンド 1–16
SWITCH コマンド 1–20
user オプション
define コマンド D–5
use コマンド
jsnaknjdef ユーティリティ D–2
USE コマンド
JSNAPRE ユーティリティ 1–9, 1–22
使用例 1–23

W

/WAIT 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
START コマンド 1–16
/WIDTH 修飾子
SET CHARACTERISTICS コマンド A–7
START コマンド 1–16

ア

アクセス名 1–12, A–4

イ

イベント・ログ・ファイル 1–10, A–6
イベント・ログ・メッセージ B–2
印刷最大行数 A–6
印刷最大桁数 A–7

カ

画面イメージ・フラグ A–6

キ

キャラクタリスティックス 1–3, A–1
表示 A–9
キャラクタリスティックス・ファイル A–1
削除 A–10
作成 A–1
キャラクタリスティックス名 1–9, 1–22, A–1
キャラクタリスティックスの変更 A–8
例 A–8
キャラクタリスティックスの定義 1–8
アクセス名 A–4
イベント・ログ・ファイル名 A–6
印刷最大行数 A–6
印刷最大桁数 A–7
空白行の挿入 A–7
外字管理ファイル A–5
ゲートウェイノード名 A–5
コピー数 A–5
サーキット名 A–5
セッション・アドレス A–7
セッション確立の方法 A–7
半角カナの処理 A–6
出力ストリーム A–6
出力フォーマット A–6
英大小文字 A–4

キャラクタリスティックスの定義 (続き)
罫線の処理 1–15, A–6
ファイルの削除 A–5
フォーム名 A–5
プリント・キューへのスプール出力 A–7
ユーザ名 A–7
キャラクタリスティックス名
定義できる数 1–3
キュー名 A–7

ク

空白行フラグ A–7

コ

コマンド形式
jsnaknjdef コマンド D–1
コンソール・メッセージ B–1

シ

修飾子 1–10
出力ストリーム 1–2, A–7

ス

ステータス
表示 A–13
ステータス・メッセージ . . . . . B–1 ~ B–31

セ

セッション
接続ごとセッション数 1–3
セッション・アドレス A–7
接続
接続ごとのセッション 1–3
接続の最大数 1–3

テ

データ
印刷 1–2
出力 1–2

ト

特権 1–10

ニ

日本語 PrE メッセージ . . . . . B–1 ~ B–31

ハ

バックグラウンド・プロセス 1–2, 1–10

メ

メッセージ 1–10
メッセージ B–2

モ

文字セット A–4

リ

リトライ・コマンド 1–16

日本語 DECnet SNA プリンタ・エミュレータ for OpenVMS ユーザーズ・ガイド

1994 年 4 月　発行

日本ディジタル イクイップメント株式会社

〒 167 東京都杉並区上荻 1-2-1

電話　(03)5349-7111 (大代表)

AA–Q4Y1A–TE